



# 鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)

## 1. 一般事項

- (1) 構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。  
 (2) 記号  
 d...異形鉄筋の呼び名に用いた数値 丸鋼では径 D...部材の成 R...直径  
 ◎...間隔 r...半径 C...中心線 lo...部材の内法距離 ho...部材の内法高さ  
 ST...あばら筋 HOOP...帯筋 S.HOOP...補強帯筋 φ...直径又は丸鋼

## 2. 鉄筋加工、かぶり

### (1) 鉄筋折り曲げ形状・寸法

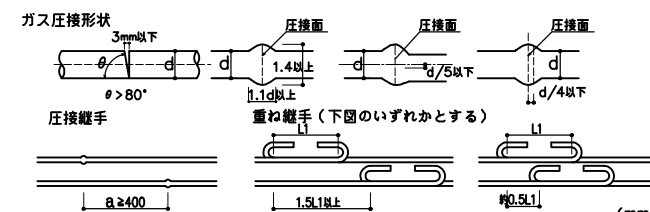
図	折曲げ角度	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折曲げ内法距離(R)
	180°	SR235 SR295 SD295A SD295B SD345	16φ以下 D16以下	3d以上
	135°	SD390	19φ D19~D41	4d以上
	90°	SD490	D25以下 D29~D41	5d以上 6d以上

### (2) 鉄筋の定着及び重ね継手長さ

鉄筋の種類	普通、軽重コンクリートの設計基準強度の範囲(N/mm <sup>2</sup> )	定着の長さ		特別の定着及び重ね継手の長さ(L1)
		一般(L2)	下筋(L3)	
SD295A SD295B	21	35d 直線または25d フック付き	小梁 10d スラブ 15cm以上	40d 直線または30d フック付き
	24~27	30d 直線または20d フック付き		35d 直線または25d フック付き
	30~36	30d 直線または20d フック付き		30d 直線または20d フック付き
	39~45	25d 直線または15d フック付き		30d 直線または20d フック付き
	48~60	25d 直線または15d フック付き		30d 直線または20d フック付き
SD345	21	35d 直線または25d フック付き	20d 直線または10d フック付き	45d 直線または30d フック付き
	24~27	35d 直線または25d フック付き		40d 直線または30d フック付き
	30~36	30d 直線または20d フック付き		35d 直線または25d フック付き
	39~45	30d 直線または20d フック付き		35d 直線または25d フック付き
	48~60	25d 直線または15d フック付き		30d 直線または20d フック付き
SD390	21	40d 直線または30d フック付き	20d 直線または10d フック付き	50d 直線または35d フック付き
	24~27	40d 直線または30d フック付き		45d 直線または35d フック付き
	30~36	35d 直線または25d フック付き		40d 直線または30d フック付き
	39~45	35d 直線または25d フック付き		40d 直線または30d フック付き
	48~60	30d 直線または20d フック付き		35d 直線または25d フック付き

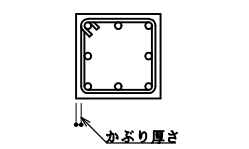
### 継手

1. 末端のフックは、定着および重ね継手の長さに含まない
2. 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする
3. 直径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方の鉄筋の継手長さとする
4. D29以上の異形鉄筋は、原則として、重ね継手としてはならない
5. 鉄筋径の差が7mmを超える場合は、圧接としてはならない



### (3) かぶり厚さ (単位: mm)

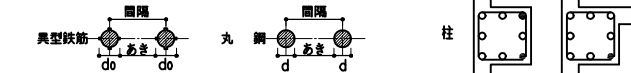
ひびわれ顕発目地部など鉄筋のかぶり厚さが部分的に減少する箇所に付いても最小かぶり厚さを確保する。



部材の種類	短期		長期		
	厚さ	長さ	厚さ	長さ	
土に接しない部分	柱・梁・耐力壁	40	40	50	40
	床・屋根スラブ	30	30	40	40
土に接する部分	柱・梁・耐力壁	40	40	50	40
	床・屋根スラブ	30	30	40	40
土に接しない部分	柱・梁・耐力壁	30	30	40	30
	床・屋根スラブ	20	20	30	30
土に接する部分	柱・梁・耐力壁	30	30	40	30
	床・屋根スラブ	20	20	30	30

## (4) 鉄筋のあき

丸鋼では径、異形鉄筋では呼び名に用いた数値1.5d以上  
 組骨材の最大寸法の1.25倍以上かつ25以上

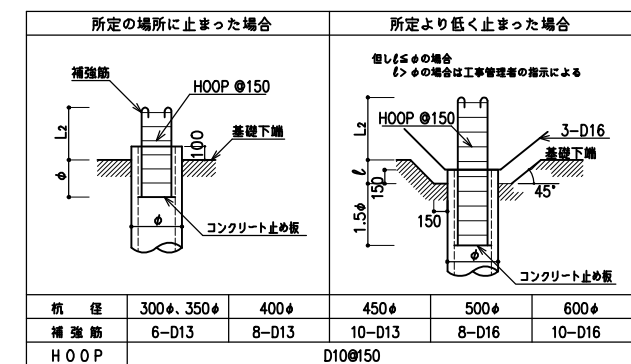


## (5) 鉄筋のフック

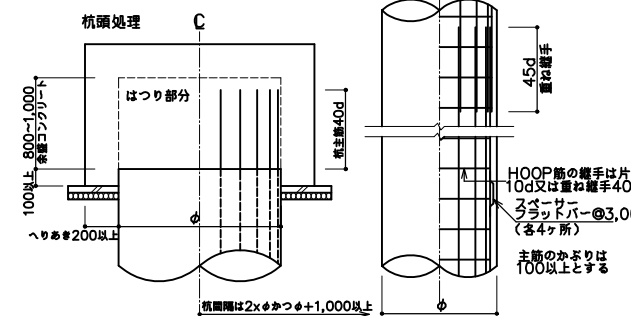
- (a-f)に示す鉄筋の末端部にはフックを付ける。  
 a. 丸鋼 b. あばら筋、帯筋 c. 埋入鉄筋  
 d. 柱、梁(基礎梁を除く)の出る部分の鉄筋(右図参照)  
 e. 単純梁の下筋  
 f. その他、本記図標準に記載する箇所

## 3. 杭 (地震力等の水平力を考慮する必要がある場合は、別途検討すること。)

### (1) PC杭、又はPHC杭全てに補強を行う

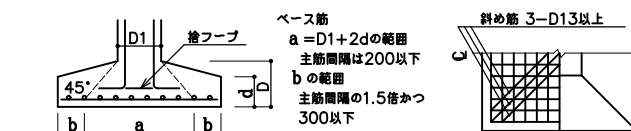


### (2) 現場打ちコンクリート杭

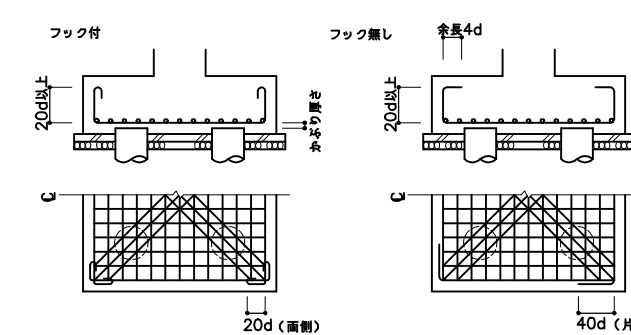


## 4. 基礎

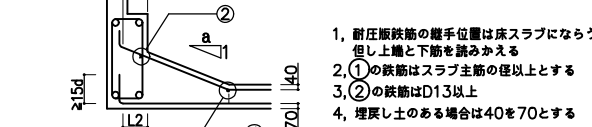
### (1) 直接基礎



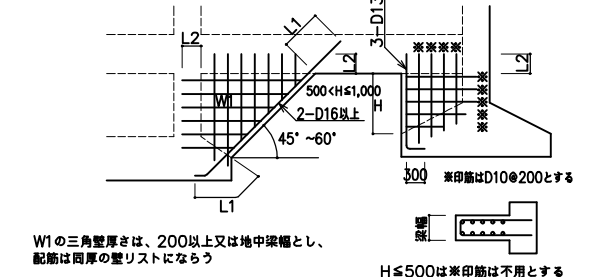
### (2) 杭基礎



## (3) べた基礎

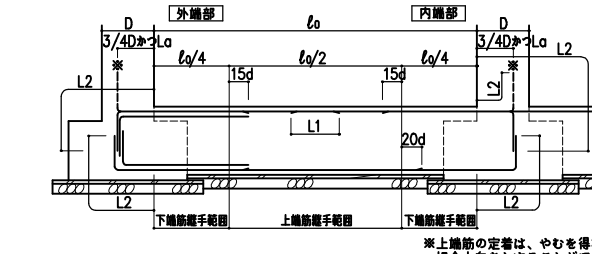


## (4) 基礎接合部の補強

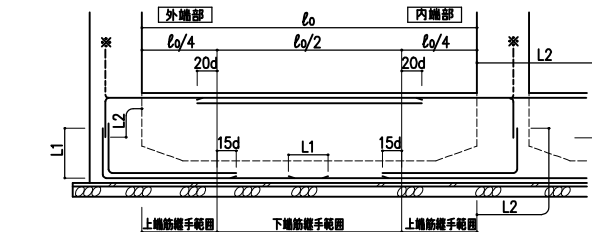


## 5. 地中梁

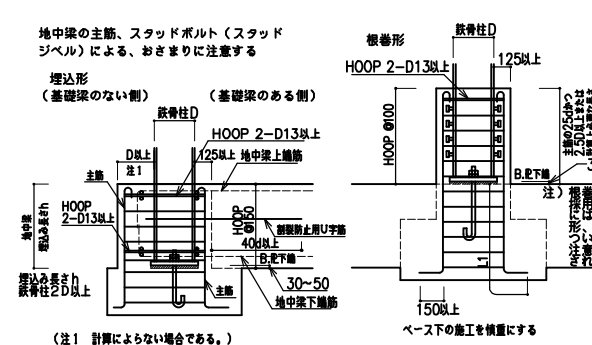
### (1) 独立基礎、杭基礎の場合(定着、継手)



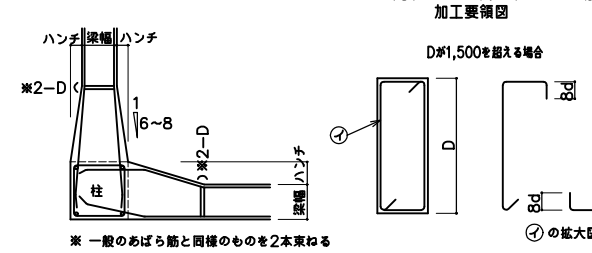
### (2) 布基礎、べた基礎の場合(定着、継手)



### (3) 小規模鉄骨構造の柱固定の配筋

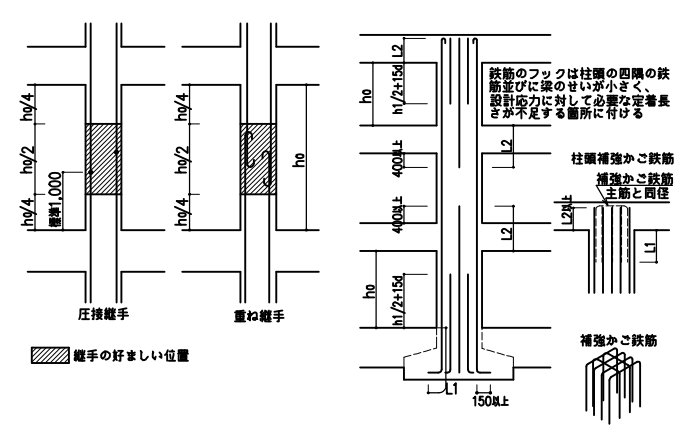


### (4) 水平ハンチの場合のあばら筋加工要領

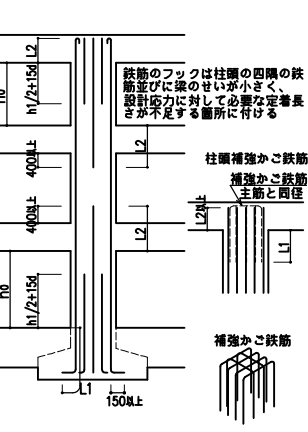


## 6. 柱

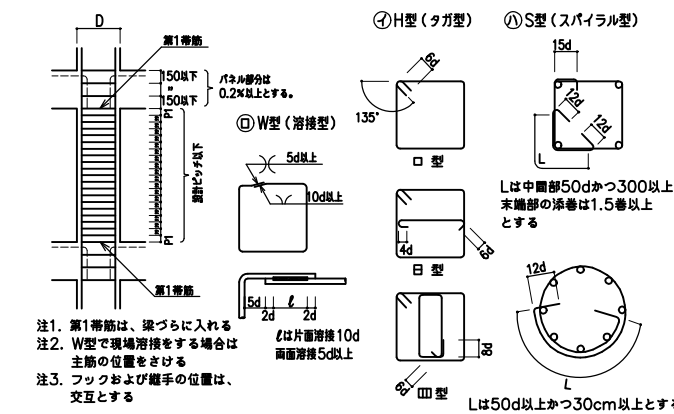
### (1) 柱主筋の継手



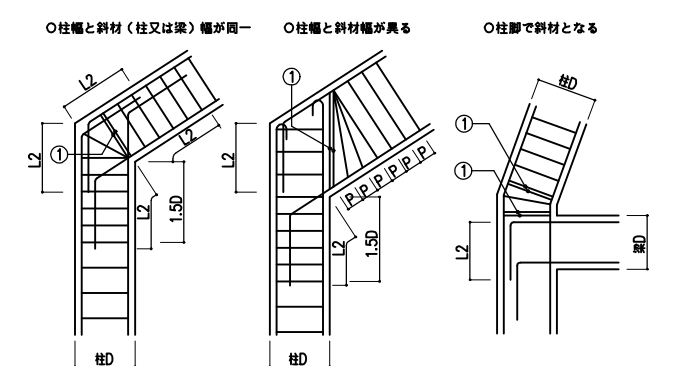
### (2) 柱主筋の定着



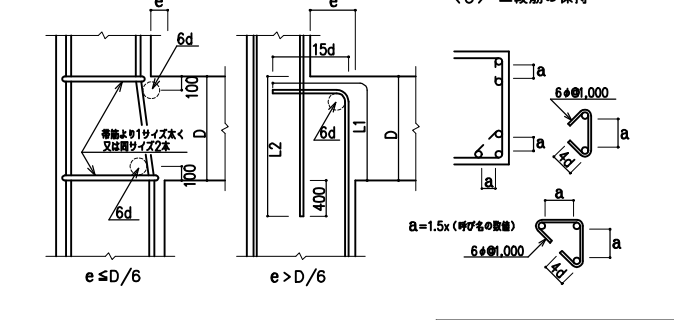
### (3) 帯筋



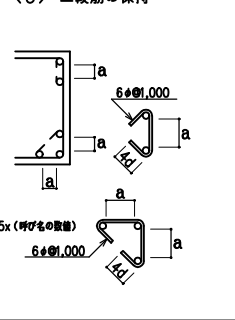
### (4) 斜め柱・斜め梁



### (5) 絞り



### (6) 二段筋の保持



氏名・番号

法適合確認  
 構造関係規定に適合することを確認した  
 構造設計一級建築士 第1110号 神田勝也

# 鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2)

L=鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)の2-(3)による。

## 7. 大梁、小梁、片持梁

(1) 定着

①大梁 (標準長さ)  $l_0/4$  15d C  $l_0/4$  15d

②小梁の定着 (標準長さ)  $l_0/4$  15d C 15d

③片持梁の定着  $15d$   $2l_0/3$  L1

(2) 大梁主筋の継手

(3) あばら筋、腹筋、幅止め筋の配置

(4) あばら筋の型 (注、床板がない場合は135°以上のフックとする)

(5) 幅止め筋の本数、加工

腹筋	D<600 不要 600≦D<900 2-D10(9#) 1段 900≦D<1,200 4-D10(9#) 2段 1,200≦D D10(9#) @300以内
幅止め筋	D10(9#) @1,000以内で割付ける

## 8. 床版

(1) 定着および継手

①片持ち床スラブ

②一般床スラブ

(2) 屋根スラブの補強

(3) 片持ちスラブ出隅部補強

(4) 床板開口部の補強(開口部≦500mmの場合)

床板厚さD	周囲	斜め
D≦150	≧2-D13	≧1-D13
150<D≦200	≧2-D13	≧2-D13
200<D≦300	≧2-D19	≧2-D16

(5) 床板段差

(6) 土間コンクリート

(7) 蓋場

(8) 打継ぎ補強 (タメ穴打継ぎについて)

## 9. 壁

(1) 定着

①梁に

②柱に(平面図)

③床に(非耐力壁とスラブが取り合う場合)

(2) スリット部 (設計図に記入のあるとき)

(3) 手摺、パラベット

(4) コンクリートブロック積壁

## 10. 柱、梁増打コンクリート補強

(2) 柱

ハッチ部の面積Acm <sup>2</sup>	補強筋
A<500	500A<1,000 1,000A<1,500
3-D16	4-D16 6-D16

(2) 梁

- 補強筋は、梁主筋の1段階し径 (D16以上) とする。
- あばら補強筋は、梁と、同径、同ピッチとする。
- 腹筋D10のピッチは、梁の腹筋と合わせる。
- D≧400の場合は補強筋を3本とする。
- aは100~200程度。
- 梁下増打コンクリートの場合も上増打コンクリート補強と同様とする。
- ハッチ部分は増打コンクリートを示す。

## 11. 梁貫通孔補強

(1) 設置可能範囲

梁端部(スパンL/10以内かつ2D以内)はさける

(2) 鉄筋標準配筋 値し、φ≦D/3とする

80≦φ≦100 折筋 2-(2-D13) 横筋 ST 2-D13	100≦φ≦150 折筋 2-(2-D13) 横筋 ST 2-D13@100	150≦φ≦250 折筋 4-(2-D13) 横筋 ST 2-D13@100 上腹筋 ST 2-D13 下腹筋 ST 2-D13
---	--	--

(3) 既製品 (使用するときは、設計者又は工事監理者と打合せのこと)

リング型 □ パイプ型 □ 金網型 □ プレート型

## 12. 増築予定 (将来増築予定のコンクリート増打ち部分は、増築時の鉄筋継手工法を考慮して措置する)

(1) 柱、梁 (2) 地中梁 (3) 床版、壁

氏名・番号  
法適合確認  
構造関係規定に適合することを確認した  
構造設計一級建築士 第1110号 神田勝也

# 鉄骨構造標準図(1)

## 1. 一般事項

- (1) 材料及び検査  
 (a) 構造設計仕様による  
 (b) 適用範囲は、鋼材を用いる工事に適用し、かつ鋼材の厚さが40mm以下のものとする  
 (c) 社内検査結果の検査報告書には、鉄骨の寸法、精度及びその他の結果を添付する
- (2) 工作一般  
 (a) 鉄骨製作及び施工に先立って「鉄骨工事施工要領書」を提出し工事監督者の承認を得る  
 (b) 鋼管部材の分岐継手部の相貫切断は、鋼管自動切断機による  
 (c) 高張力鋼の歪み矯正は、冷間矯正とする
- (3) 高力ボルト接合  
 (a) 本構めに使用するボルトと、仮締めボルトの併用はしてはならない
- (4) 溶接接合  
 (a) 溶接技能者  
 溶接技能者は施工する溶接に適合するJIS Z3801(手溶接)又はJIS Z3841(半自動溶接)の溶接技術検定試験に合格し引継ぎ、半年以上溶接に従事している者とする  
 (b) 溶接機器  
 (イ) 交流アーク溶接機 300A~500A (ニ) 炭酸ガスアーク半自動溶接機  
 (ロ) アークエアガウジング機(直流) (ホ) 溶接電流を測定する電流計  
 (ハ) サブマージアーク溶接機一式 (ヘ) 溶接機乾燥器  
 (c) 溶接方法  
 アーク手溶接(MC) ガスシールドアーク半自動溶接(GC)  
 セルフ(ノンガス)シールドアーク半自動溶接(NGC) アークエアガウジング(AAG)  
 (d) 溶接姿勢  
 下向 F 立向 V 横向 H 上向 O  
 (e) 組立て溶接技能者は、原則として本工事に従事する者が行う  
 (イ) 仮付位置  
 組立て溶接は溶接の始、終端、隅角部など強度上、工作上、問題となり易い箇所は避ける  
 (ロ) 完全溶込み溶接部の仮付溶接は必ず裏はつり側に施工する  
 (f) 溶接施工  
 (イ) エンドタブ  
 I 完全溶込み溶接、部分溶込み溶接の両端部に母材と同厚で同開先形状のエンドタブを取り付ける  
 II エンドタブの材質は、母材と同質とする  
 III エンドタブの長さは、MC:35mm以上  
 NGC、GC:40mm以上とし特記のない場合は、溶接終了後母材より10mm程度強引切断して、グラインダー仕上げとする  
 IV プレス鋼板タブ、図形タブ使用については、資料を提出して設計者又は工事監督者の承認を得る  
 (ロ) 裏あて金  
 材質は母材と同質材料とし厚さは手溶接で6mm、半自動溶接で9mm以上とする  
 (ハ) スカラップ 半径は30~35mmと、10mmのダブルアールとする  
 (ホ) 裏はつり  
 蓋縁部の溶接においてAAGと記載のある部分は全て、溶接監督者の承認を履行し、部材に確認マークを付ける  
 (ヘ) 現場溶接の開先面には、溶接に支障のない防錆鋼材を塗布する。又、開先面をいためない様に、養生を行う  
 (5) 塗装  
 コンクリートに埋め込まれる部分及びコンクリートとの接触面で、コンクリートと一体とする設計仕様になっている部分は、塗装をしない

## 2. 溶接基準図 (注) f:余盛 G:ルート開 R:フェース S:脚長 (単位 mm)

(1) 隅内溶接

t ≤ 16mm	
t	4.5~6 7~10 11~13 14~16
S	3 4 7 10 12

(2) 部分溶込み溶接 (使用箇所を注意)

R ≤ 2	t/4 ≤ S ≤ 10mm	t ≤ t1
t	t > 16mm	溶接姿勢 F.V

(3) 完全溶込み溶接 (平継手、T継手)

③ T形突合せ継手余盛 f=t/4

t	6 < t < 19mm	溶接姿勢 F.V
---	--------------	----------

④ T形突合せ継手余盛 f=t/4

t	6 < t < 19mm	溶接姿勢 F.V
---	--------------	----------

⑤ T形突合せ継手余盛 f=t/4

の厚 tmm	余盛の高さ mm
t ≤ 4	1
4 < t ≤ 12	2
12 < t ≤ 19	3
t > 19	4

⑥ T形突合せ継手余盛 f=t/4

t mm	θ	G	t1	L	θ	G	t1	L
6 < t < 12	45°	6	6	5	45°	6	6	5
12 ≤ t ≤ 19	35°	9	9	5	45°	6	9	5
t > 19	35°	9	9	8	35°	9	9	8

⑦ T形突合せ継手余盛 f=t/4

t mm	θ	G	t1	L	θ	G	t1	L
6 < t < 12	45°	6	6	5	45°	6	6	5
12 ≤ t ≤ 19	35°	9	9	5	45°	6	9	5
t > 19	35°	9	9	8	35°	9	9	8

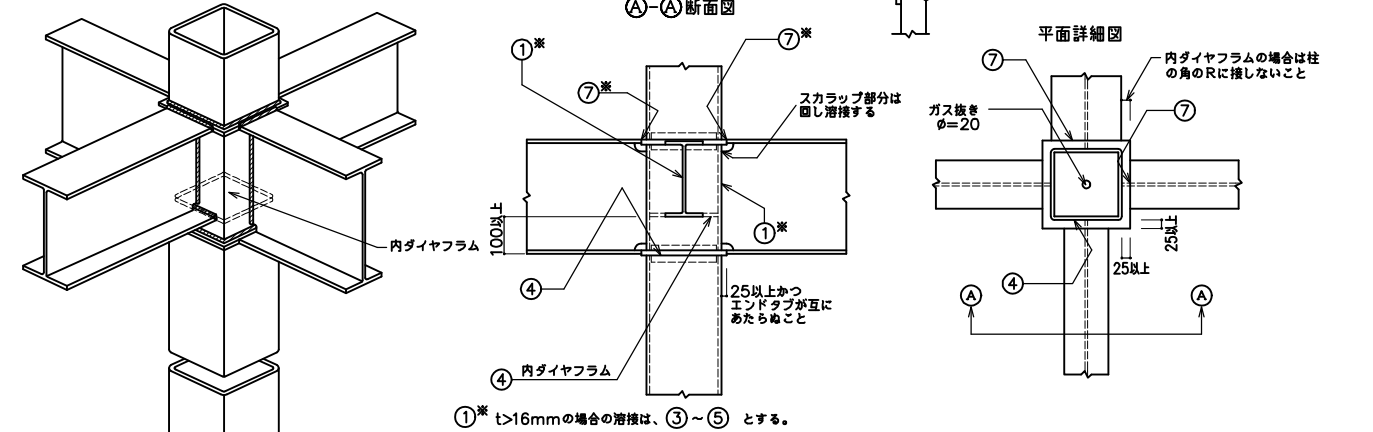
(4) フレア溶接

K形の場合

寸法 (mm)	φ	B	S
	9	7	4
	13	8	4.5
	16	9	5
	19	10	6
	22	11	7
	25	12	8

溶接記号番号を○中に記入のこと

### ● BOX型 (通しダイヤフラムの場合)

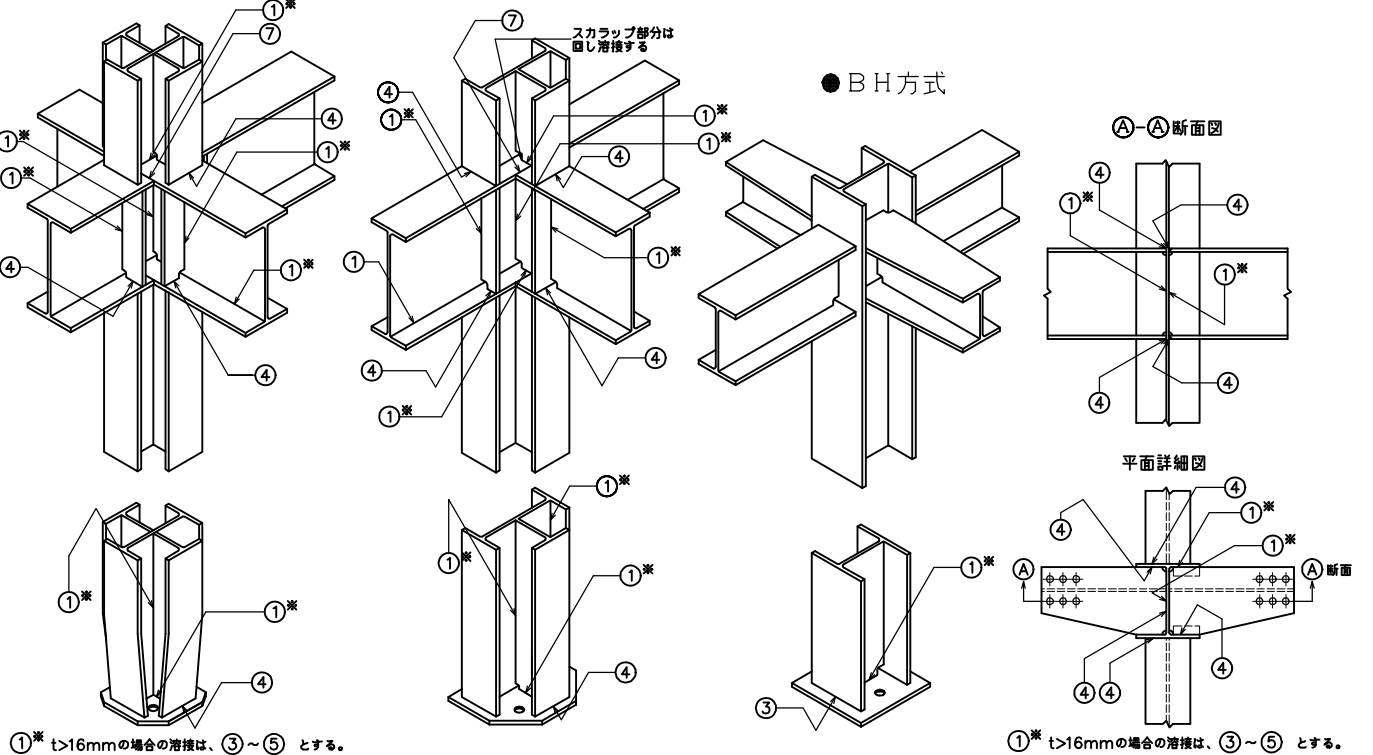


### ● 鋼材種別による溶接条件

鋼材の種類	溶接材料	入熱 (KJ/cm)	バス温度 (℃)
400N鋼材	JIS Z 3211, 3212, 3214	40以下	350以下
	JIS Z 3312 YGW-11, 15 YCW-18, 19		
490N鋼材	JIS Z 3315 YGA-50W, 50P	40以下	350以下
	JIS Z 3212, 3214 YCW-11, 15 YCW-18, 19		
	JIS Z 3315 YGA-50W, 50P	40以下	350以下

注) STKR, BCR, BCPはJIS Z 3312のみ使用可。  
 認定または登録工場のグレード別に定められた適用範囲と溶接条件制限事項による。

### ● I-H型



氏名・番号  
 法適合確認  
 構造関係規定に適合することを確認した  
 構造設計一級建築士 第1110号 神田勝也

# 鉄骨構造標準図(2)

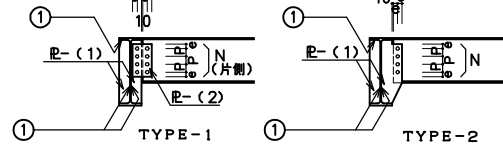
## 3. 継手基準、その他

(1) ボルトピッチ(P)、ボルト穴径・最小端距離 (mm)

呼び	ボルト穴径	最小端距離 (e)			ピッチ (P)	
		(1)	(2)	(3)	最小	標準
M16	18	40	28	22	40	60
M20	22	50	34	26	40	60
M22	24	55	38	28	40	60
M24	26	60	44	32	45	60

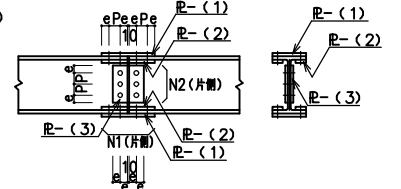
- (注) (1) 引張材の接合部で耐力方向にボルトが3本以上ならない場合の耐力方向の端距離
- (2) せん断線・主動ガス切断線の場合の端距離
- (3) 圧延線・自動ガス切断線・のこぎ線・機械仕上線の場合の端距離

(2) ピン接合継手リスト



符号	タイプ	部材	R-(1)		R-(2)		N-径
			(1)	(2)	(1)	(2)	

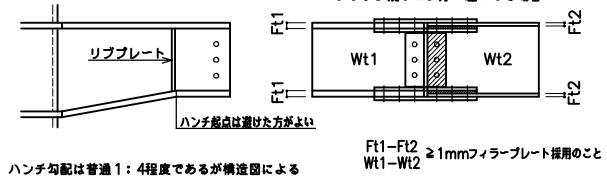
(3) 梁剛接合継手リスト



注) 端部をBHとする場合は設計図による

符号	部材	フランジ			ウェブ	
		R-(1)	R-(2)	N1-径	R-(3)	N2-径

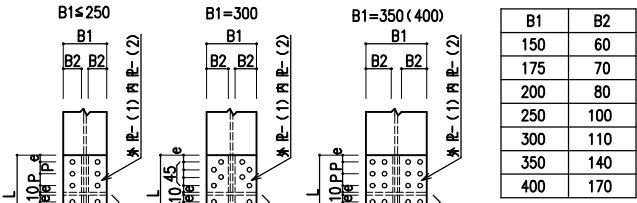
(4) ハンチ部の継手



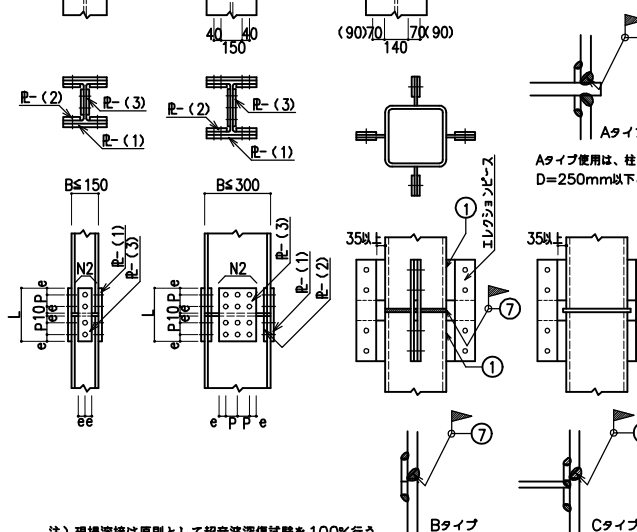
ハンチ勾配は普通1:4程度であるが構造図による

F1-F2 ≥ 1mmフィラプレート採用のこと  
W1-W2

(5) 柱継手リスト (SCSS-H97による)



B1	B2
150	60
175	70
200	80
250	100
300	110
350	140
400	170



注) 現場溶接は原則として超音波探傷試験を100%行う

符号	部材	フランジ			ウェブ	
		R-(1)	R-(2)	N1-径	R-(3)	N2-径

(6) 鉄筋ブレース (JIS規格品とする...JISA5540-1982/5541・5542-1993)

(a) 羽子板ボルト

ねじの呼び (d)	M12	M14	M16	M18	M20	M22	M24
軸径d1 最大	10.81	12.65	14.65	16.33	18.33	20.33	21.99
軸径d1 最小	10.64	12.46	14.46	16.11	18.11	20.11	21.77
調整ねじ長さ S	100	115	125	140	150	165	175
取付ボルト穴径 取付長さ ±0.5mm R	13	17	17	21.5	21.5	23.5	21.5
はしあき (最小) (2) e1	35	40	45	50	50	55	50
へりあき (最小) (1) e2	22	28	28	34	34	38	38
切板厚 板厚 t	4.5	6	6	9	9	9	9
へりあき (最小) (1) e2	19	25	25	32.5	32.5	37.5	37.5
平鋼厚 板厚 t	4.5	6	6	9	9	9	9
ボルト端から取付ボルト穴心のあき (最小) e3	47	52	59	66	66	73	70
溶接長さ (最小) l	40	50	55	60	75	85	85

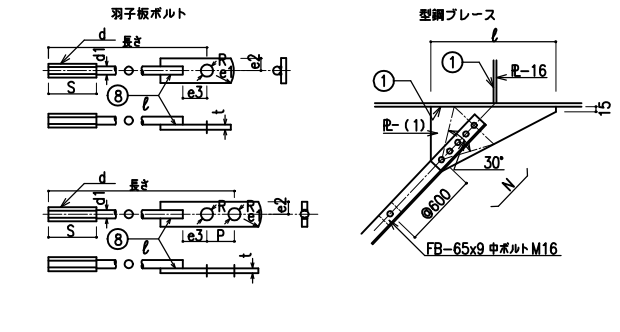
(2) 種類 JIS B 1186 2種高力ボルト (F10T) 又は JIS B 1180 中 8g 10.9

ねじの呼び	M12	M16	M16	M20	M20	M22	M20
本数	1	1	1	1	1	1	2

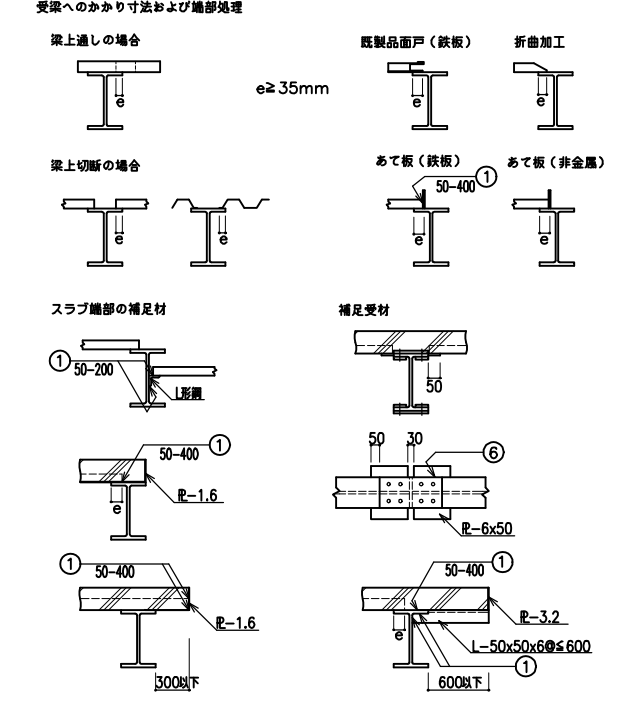
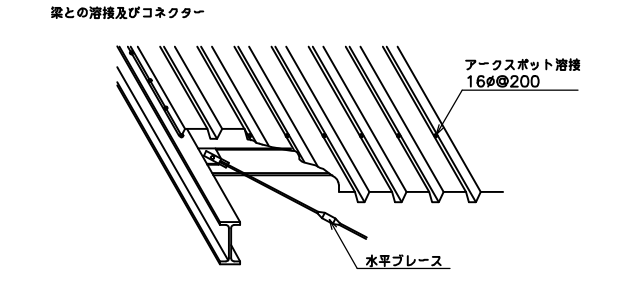
- 注 (1) e1, e2が確保されていれば形状は自由でよい
- (2) 羽子板とがセットプレートの場合は表に示す取付ボルトを使用し、一面(支圧)接合とする

(b) 形鋼ブレース

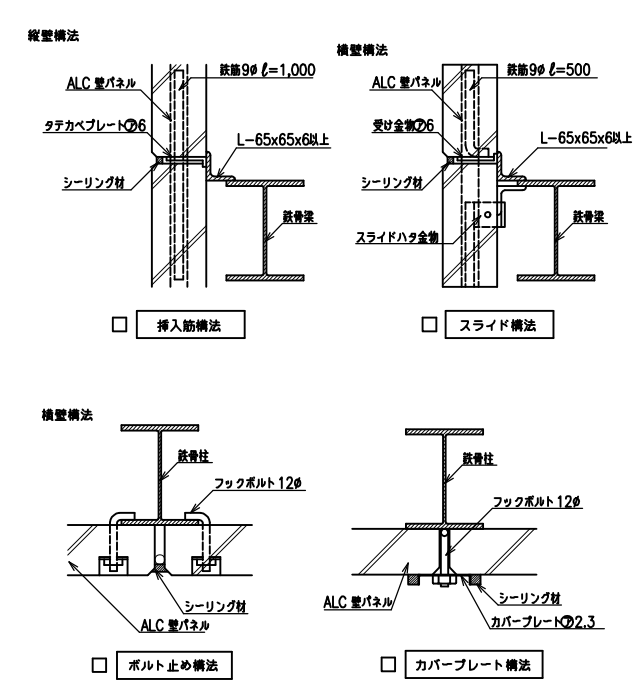
符号	部材	PL-(1)	N-径	l



(7) デッキプレート (床剛性を考慮する合成床、合成梁のときは構造図参照)



(8) ALC取付け要領



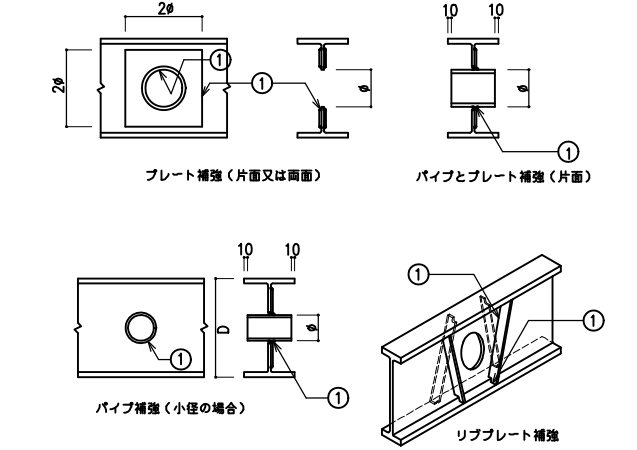
(9) 頭付きスタッド (JIS1198)

スタッド材の標準形状・寸法

形状	呼び名	スタッド材			
		軸径d mm	頭径D mm	頭高さT mm	溶接後の長さL mm
形状	φ13mm	13.0 12.7	22.0 25.4	10.0 7.9	50,80,100,130
	φ16mm	16.0 15.8	29.0 31.7	10.0 7.9	80,100,130
形状	φ19mm	19.0 19.0	32.0 31.7	10.0 9.5	80,100,130,150
	φ22mm	22.0 22.2	35.0 34.9	10.0 9.5	100,130,150

(10) 梁貫通補強

- ・計算で確認された場合は下記の位置、寸法によらずに良い。
- ・梁端部(スパンのl/10以内かつ2D以内)は避ける
- ・φ ≤ 0.4D



(11) その他





ボーリング柱状図

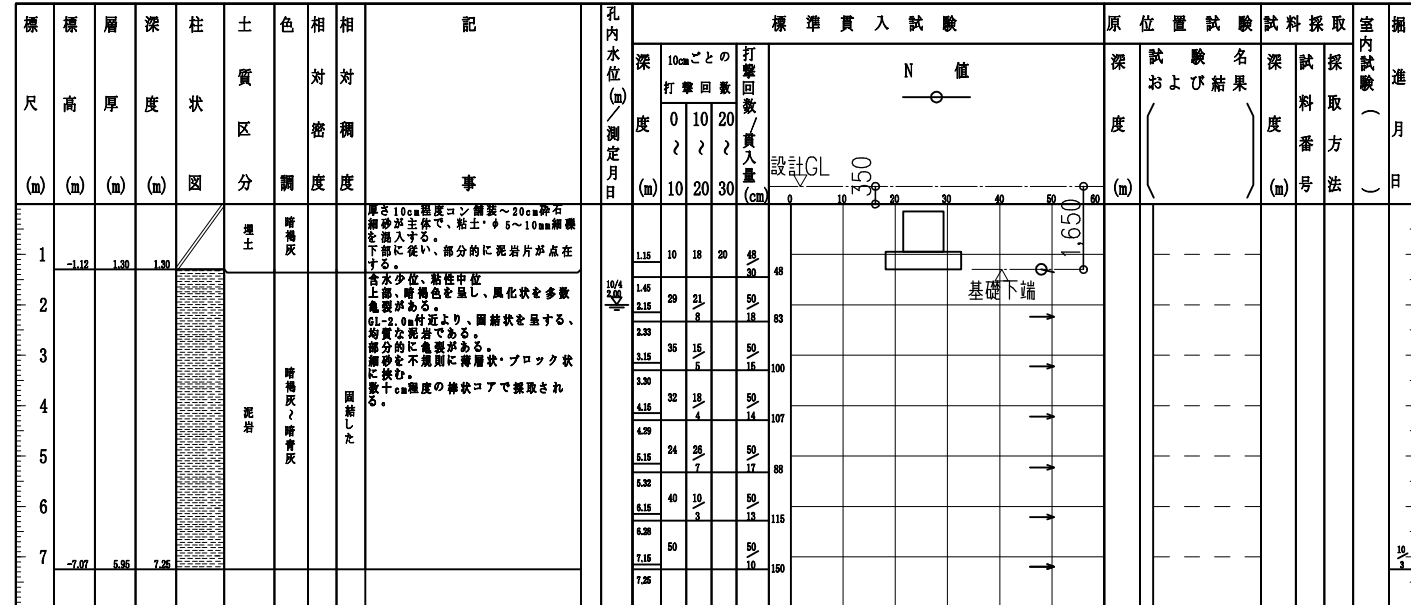
調査名 東安房漁業協同組合 加工処理施設(ヒジキ加工場)整備工事地盤調査

ボーリングNo

事業・工事名

シートNo

Header information table for Borehole No. 1, including location, dates, and equipment details.



ボーリング柱状図

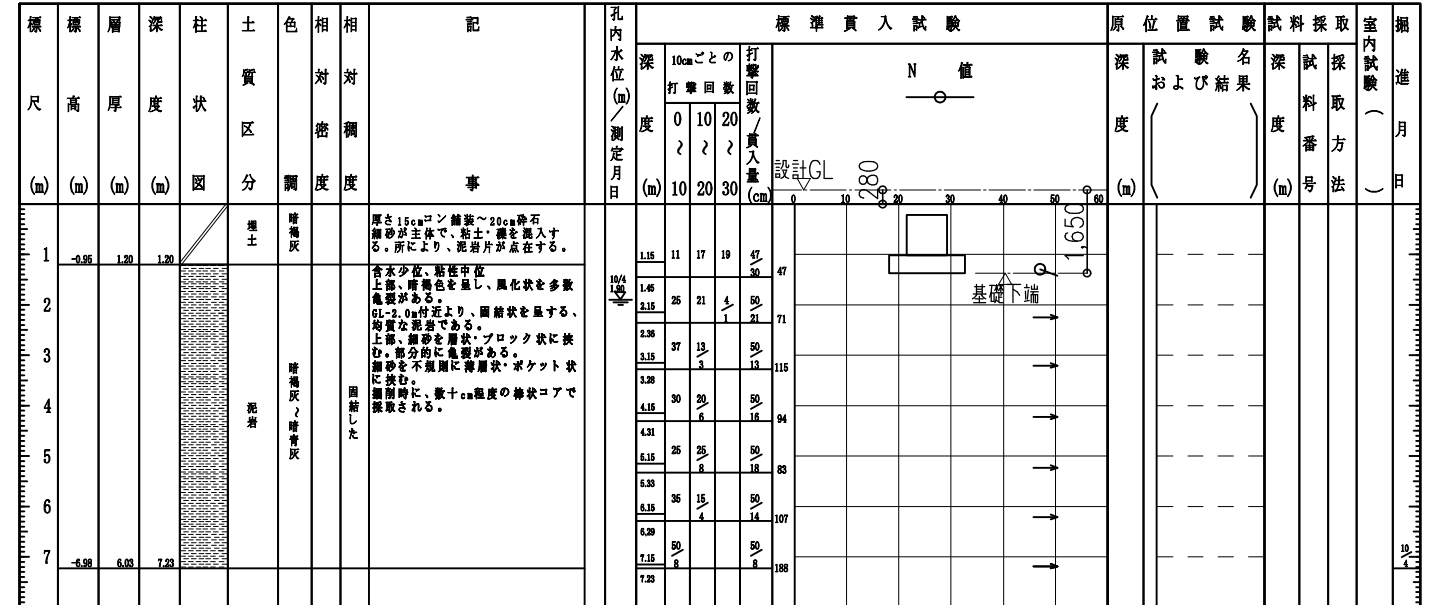
調査名 東安房漁業協同組合 加工処理施設(ヒジキ加工場)整備工事地盤調査

ボーリングNo

事業・工事名

シートNo

Header information table for Borehole No. 2, including location, dates, and equipment details.



氏名・番号 法適合確認 構造関係規定に適合することを確認した 構造設計一級建築士 第1110号 神田勝也

## ボーリング柱状図

調査名 東安房漁業協同組合 加工処理施設(ヒジキ加工場)整備工事地盤調査

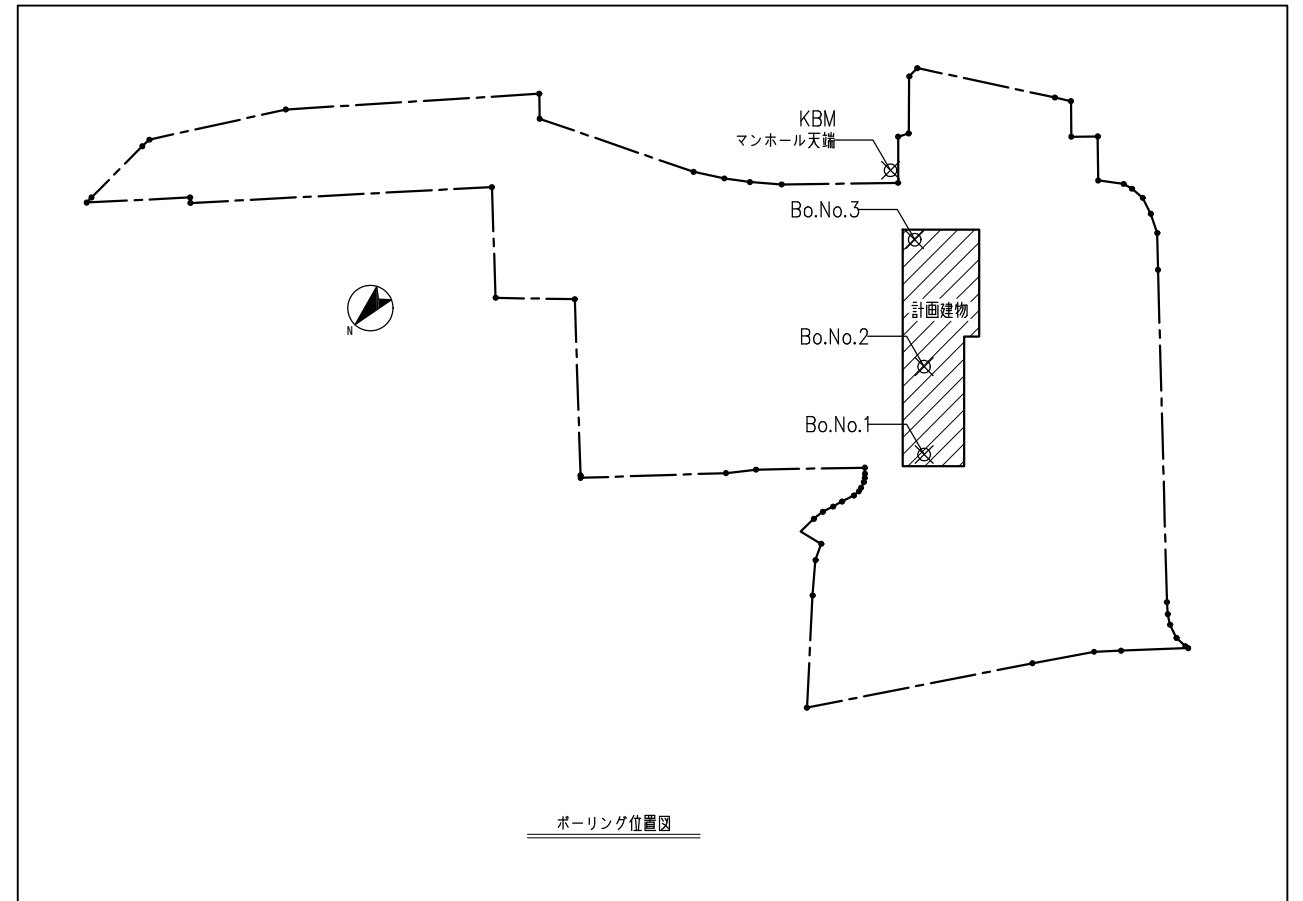
ボーリング No									
----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シート No

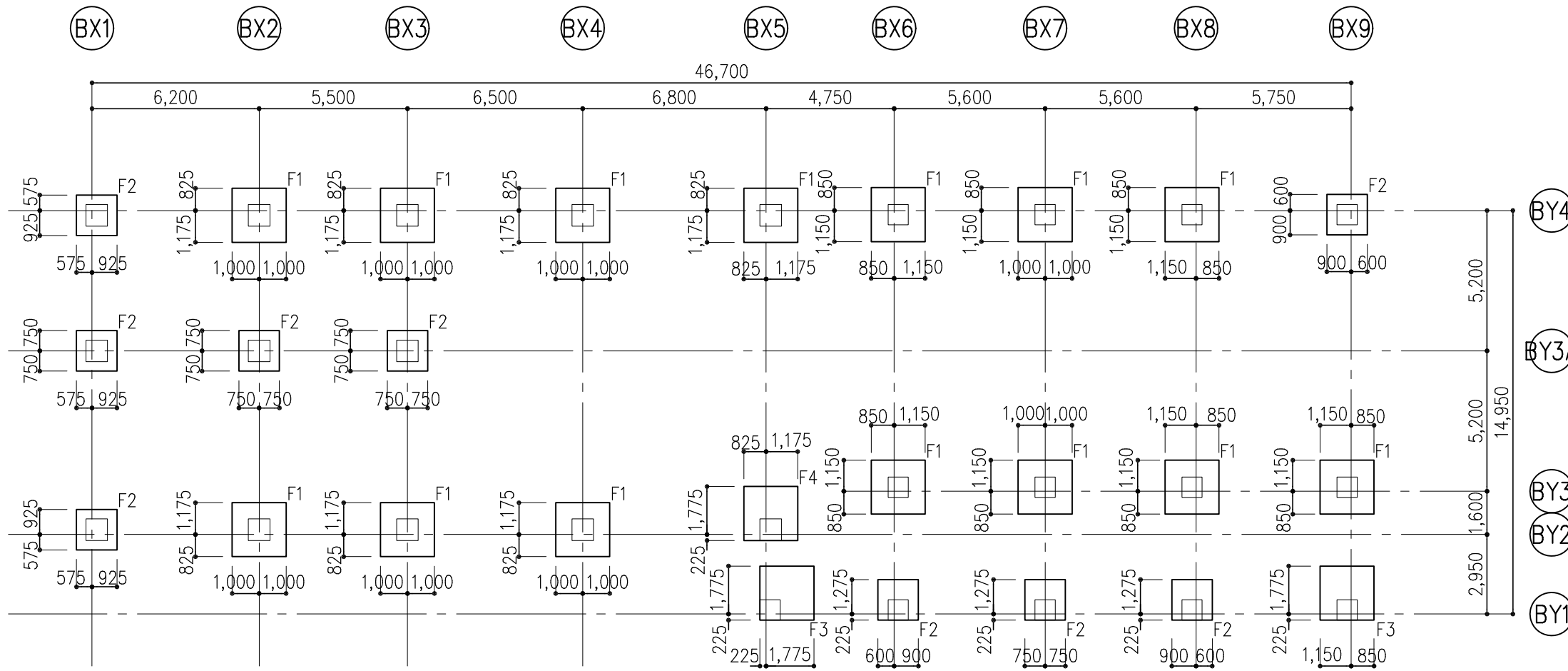
ボーリング名	No. 3		調査位置	千葉県南房総市千倉町千田字西沙入1052-6地内			北緯		
発注機関	東安房漁業協同組合 様			調査期間	令和 4年 10月 5日 ~ 4年 10月 5日			東経	
調査業者名	株式会社 第一工業 電話 (047-328-1551)		主任技師		現場代理人	佐々木 茂哉		ボーリング責任者	地崎 知晴
孔口標高	KBM +0.03m	角	180° 上 90° 下	方	北 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	水平 90° 	使用機	試験機 KR-100 ハンマー 落下用具 半自動
総掘進長	10.25m	度		向		エンジン	NFD12	ポンプ	V-6

標尺 (m)	層厚 (m)	柱状図	土質区分	色	相対密度	相対稠度	記	標準貫入試験			原位置試験 深さ (m)	試験名 および結果	試料採取 深さ (m)	採取 番号	室内試験 月日	
								深さ (m)	10cmごとの 打撃回数 	打撃回数/ 貫入量 (cm)						
1			埋土	暗灰色	中位		厚さ 5cm アスベスト~16mm 砕石 上部、細砂が主体で、粘土を混 入する。 GL-0.80より、シルトが主体で細砂 を互層状に挟む。 GL-1.50より、細砂が主体で、シル トを混入し、泥岩片が点在する。	1.15	2	1	1	30				
2	-2.17	2.20	2.20	砂質固結粘土	暗灰色	固結した	含水少く、粘性中位 粘土が主体で、半固結状を呈し、細 砂を互層状に挟む。 部分的に固結状を呈し、掘削時に数 cmの塊状コアで採取される。	1.45	6	27	18	50				
3				泥岩	暗灰色~暗青灰	固結した	含水少く、粘性中位 固結状を呈する、均質な泥岩であ る。部分的に気泡がある。 細砂を不規則に層状・ブロック状 に挟む。 掘削時に、数十cm程度の塊状コアで 採取される。	2.40	10	13	17	40				
4	-4.27	2.10	4.30					3.15	10	13	15	38				
5								3.45	10	13	15	38				
6								4.15	10	13	15	38				
7								4.45	13	20	17	50				
8								4.65	15	23	15	50				
9								5.40	15	23	15	50				
10	-10.22	5.95	10.25					6.15	15	23	15	50				
								6.37	15	18	17	50				
								7.15	15	18	17	50				
								7.40	14	16	20	50				
								8.15	14	16	20	50				
								8.42	21	29		50				
								9.15	50			50				
								9.20	50			50				
								10.15	50			50				
								10.25	50			50				



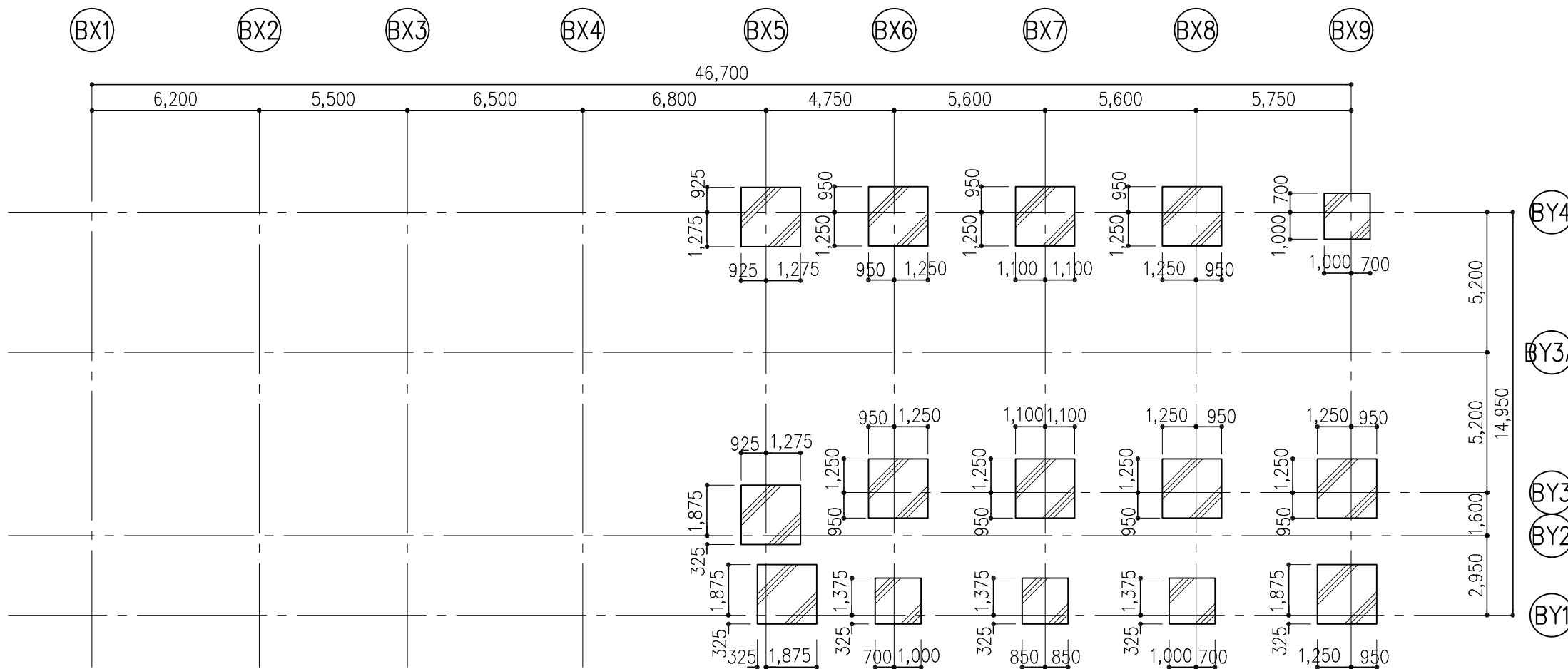
氏名・番号  
法適合確認  
設計GL=KBM+530とする。  
構造関係規定に適合することを確認した。  
最低地盤面(構造計算上のGL)=設計GL-500=KBM+30とする。  
構造設計一級建築士 第1110号 神田勝也





基礎伏図 A3 1:200

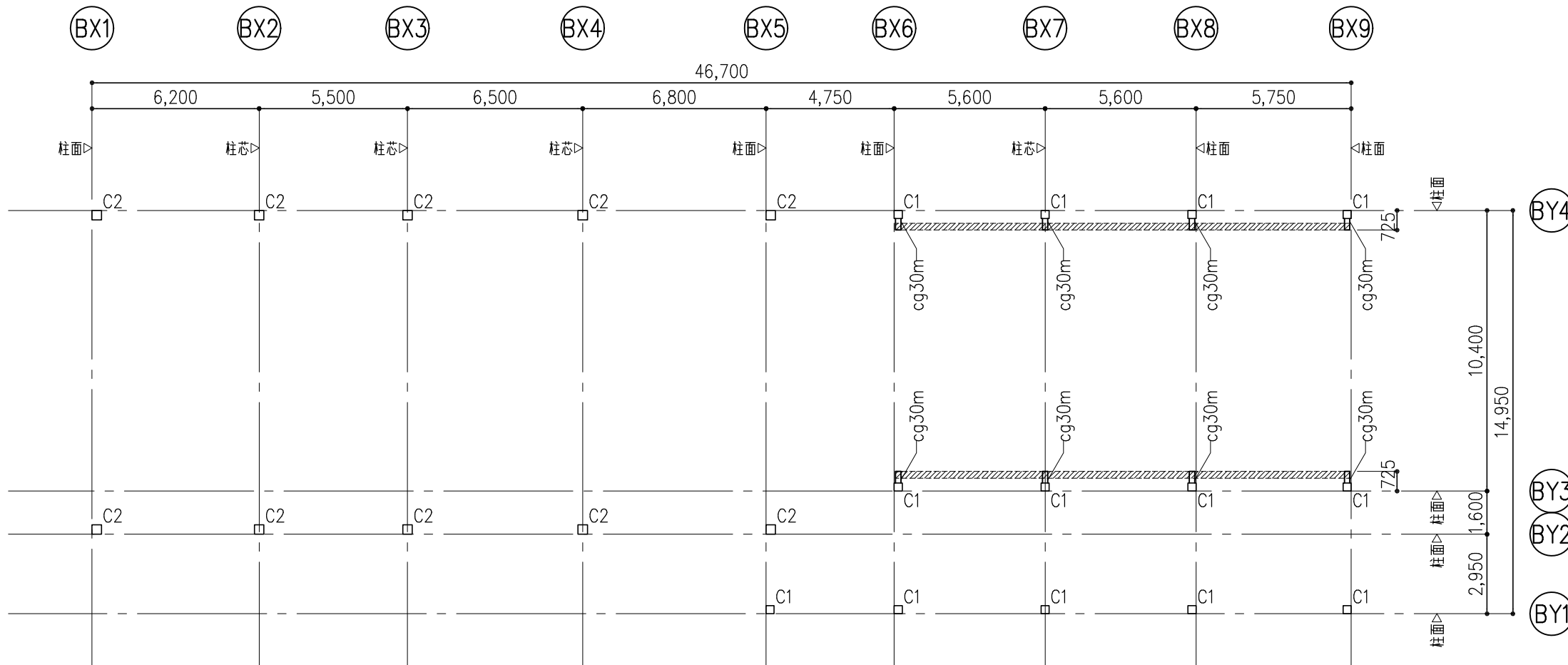
特記事項  
1.基礎下端レベルは設計GL-1,650とする。



ラップルコンクリート伏図 A3 1:200

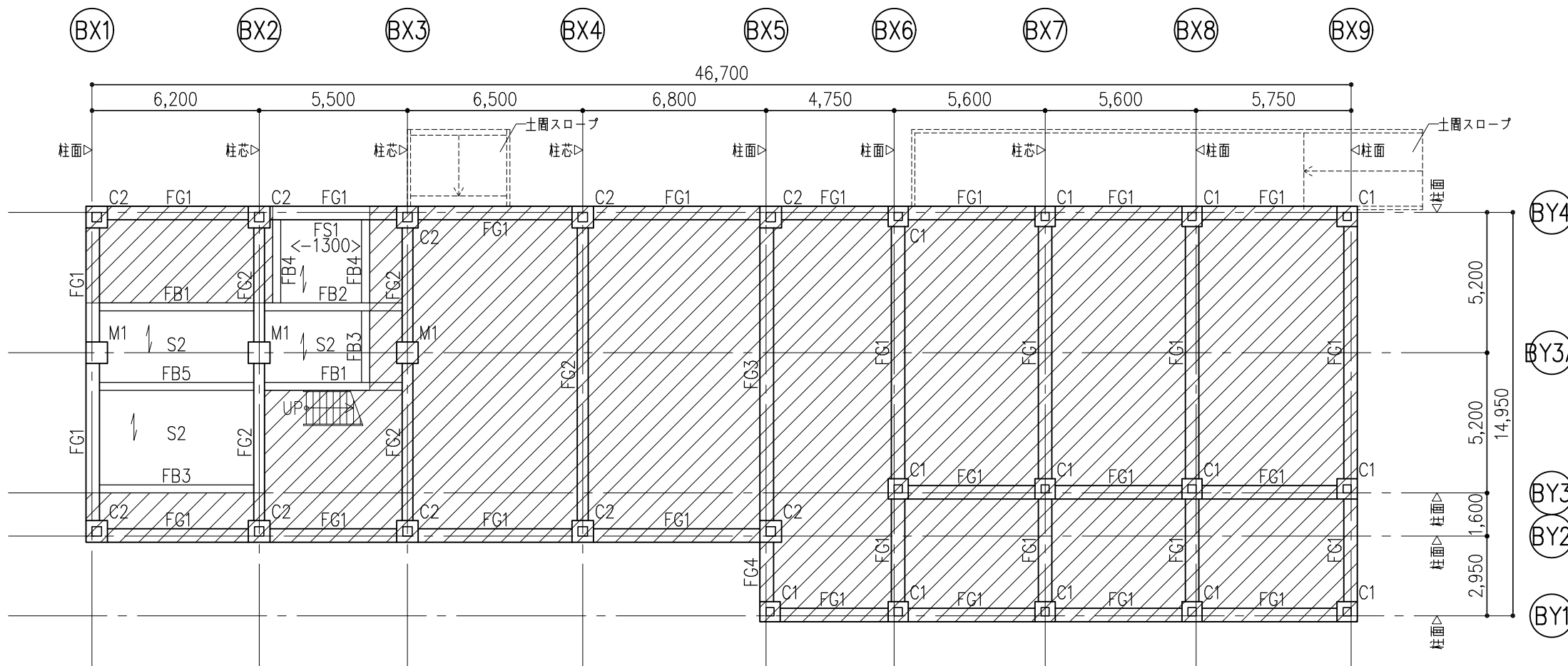
特記事項  
1.ラップルコンクリートはFc24 S-18とする。  
2.ラップルコンクリート天端レベルは設計GL-1,650とする。  
3.ラップルコンクリート下端レベルは設計GL-2,700とする。  
\*設計・積算上の下端レベル。  
4.支持層は泥岩、砂質固結粘土とする。  
5.最終的なラップルコンクリート下端レベルは、着工後現場掘削を行い、泥岩、砂質固結粘土の発現レベルかつ設計GL-1,650以深とする。

氏名・番号  
法適合確認  
構造関係規定に適合することを確認した  
構造設計一級建築士 第1110号 神田勝也



クレーン架台伏図 A3 1:200

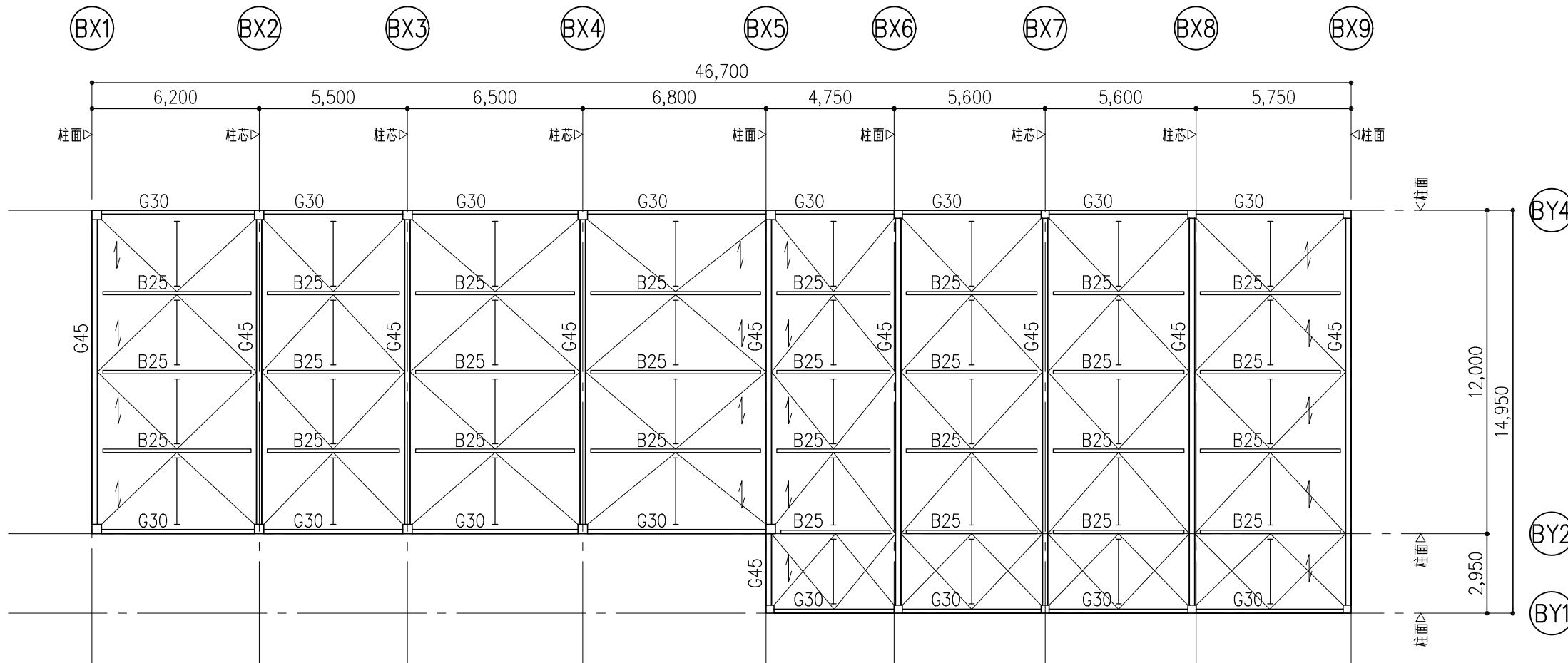
- 特記事項
1. 梁レベルは軸組図による。
  2. はレール架台を示す。
  3. 架台の振れ止め等は別途詳細図による。



1階伏図 A3 1:200

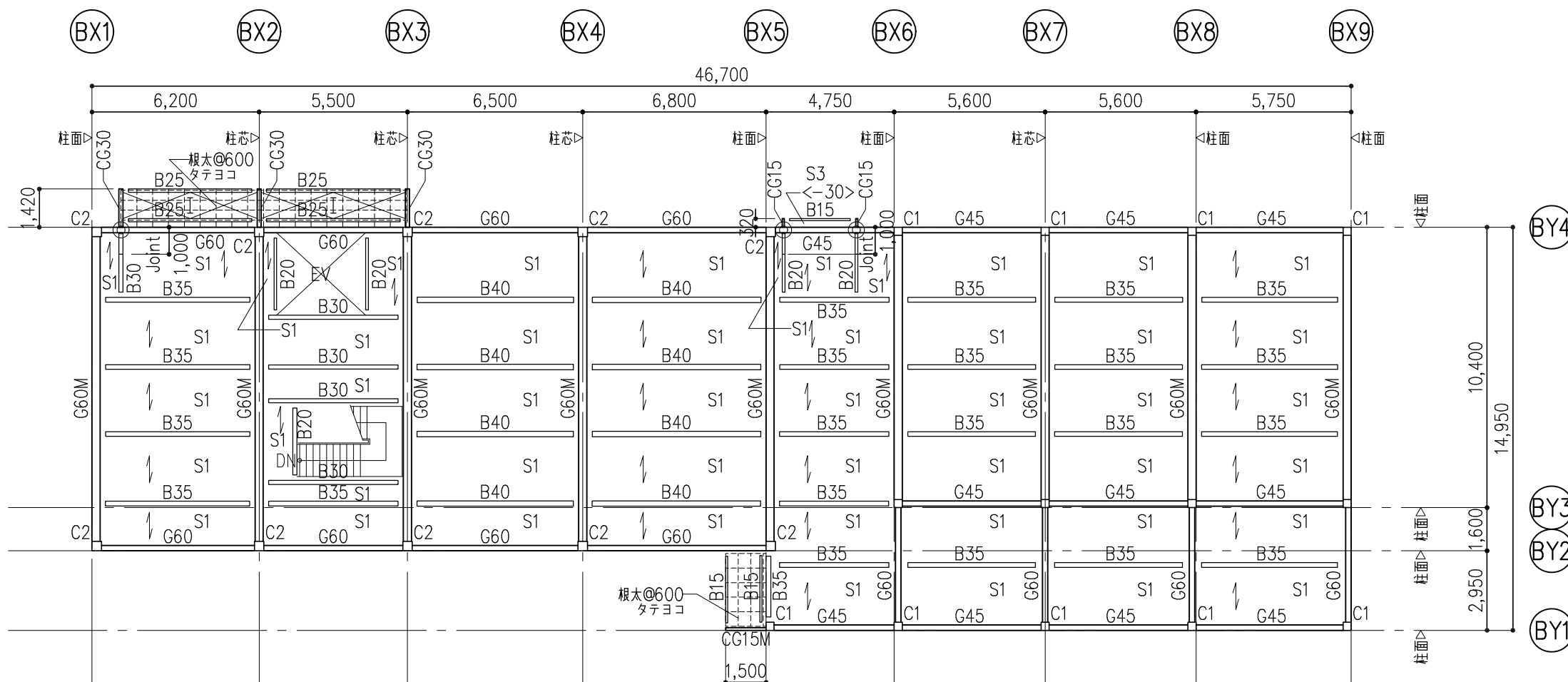
- 特記事項
1. < > はFLからのスラブ天端レベルを示す。  
特記無き限り1FL±0
  2. はスラブ主筋方向を示す。
  3. 梁レベルは軸組図による。
  4. 小梁レベルはスラブ下端とする。
  5. は土圍コンクリートを示す。

氏名・番号  
 法適合確認  
 構造関係規定に適合することを確認した  
 構造設計一級建築士 第1110号 神田勝也



R階伏図 A3 1:200

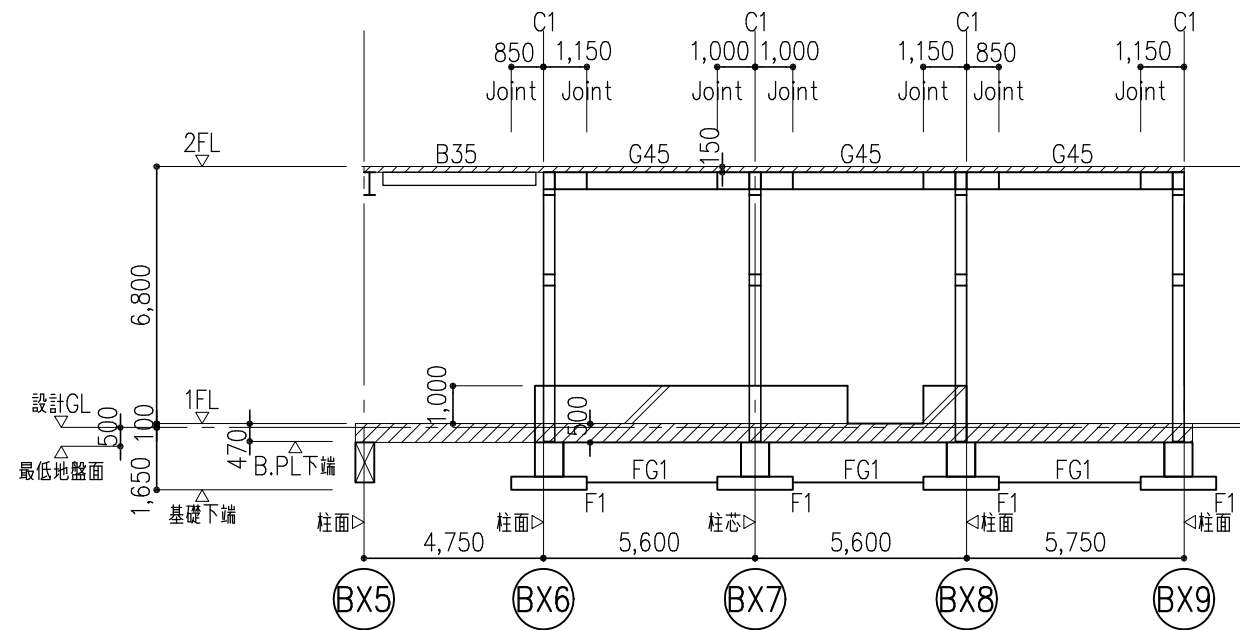
- 特記事項
1. 梁レベルは軸組図による。
  2. 水平ブレースはSV1とする。
  3.  $\rightarrow$  はB0を示す。
  4.  $\rightarrow$  は折板方向を示す。
  5. タイプフレームの取り付け小梁天端レベルは取り付け大梁レベル+50とする。



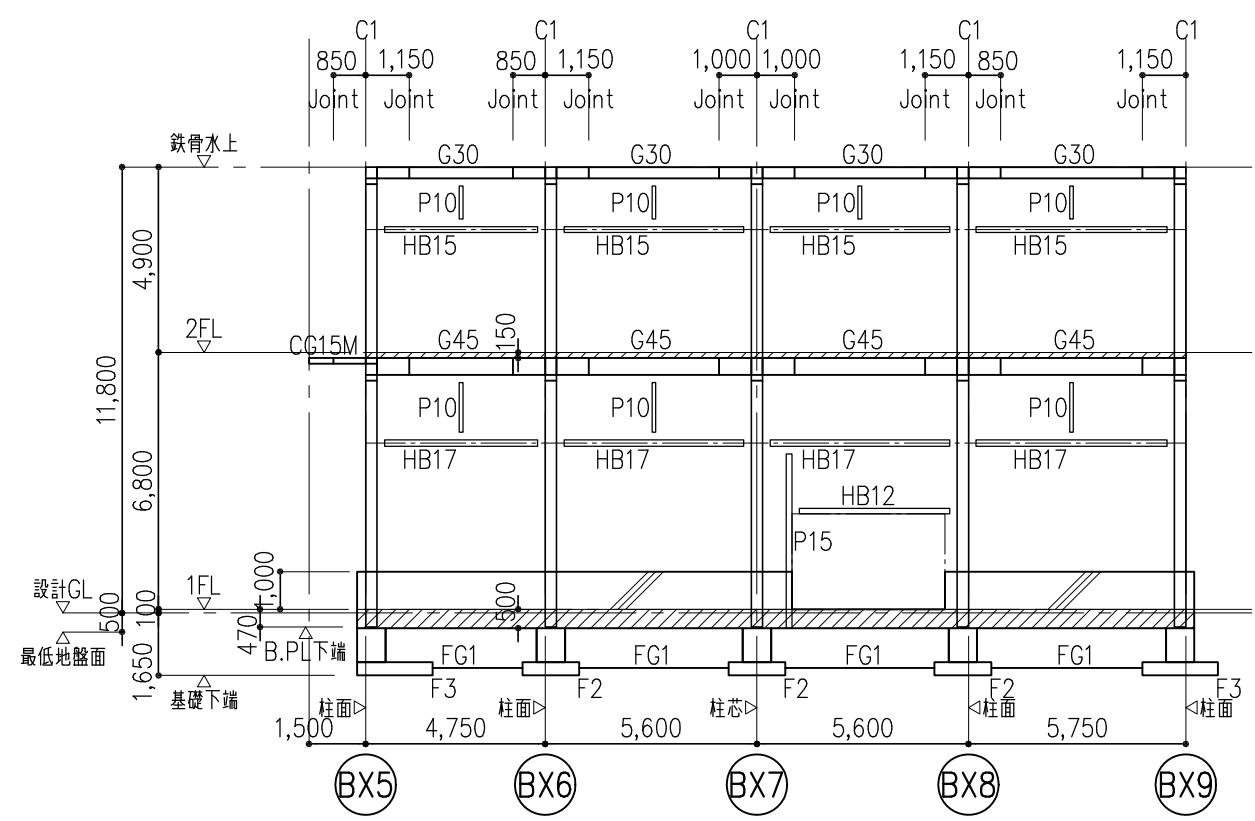
2階伏図 A3 1:200

- 特記事項
1.  $\langle \rangle$  は2FLからのスラブ天端レベルを示す。  
特記無き限り2FL±0
  2.  $\rightarrow$  はスラブ主筋方向を示す。
  3. 梁レベルは軸組図による。
  4. 小梁レベルはスラブ下端とする。
  5. 水平ブレースはSV1とする。
  6.  $\rightarrow$  はB0を示す。
  7.  $\odot$  は小梁の剛接合を示す。

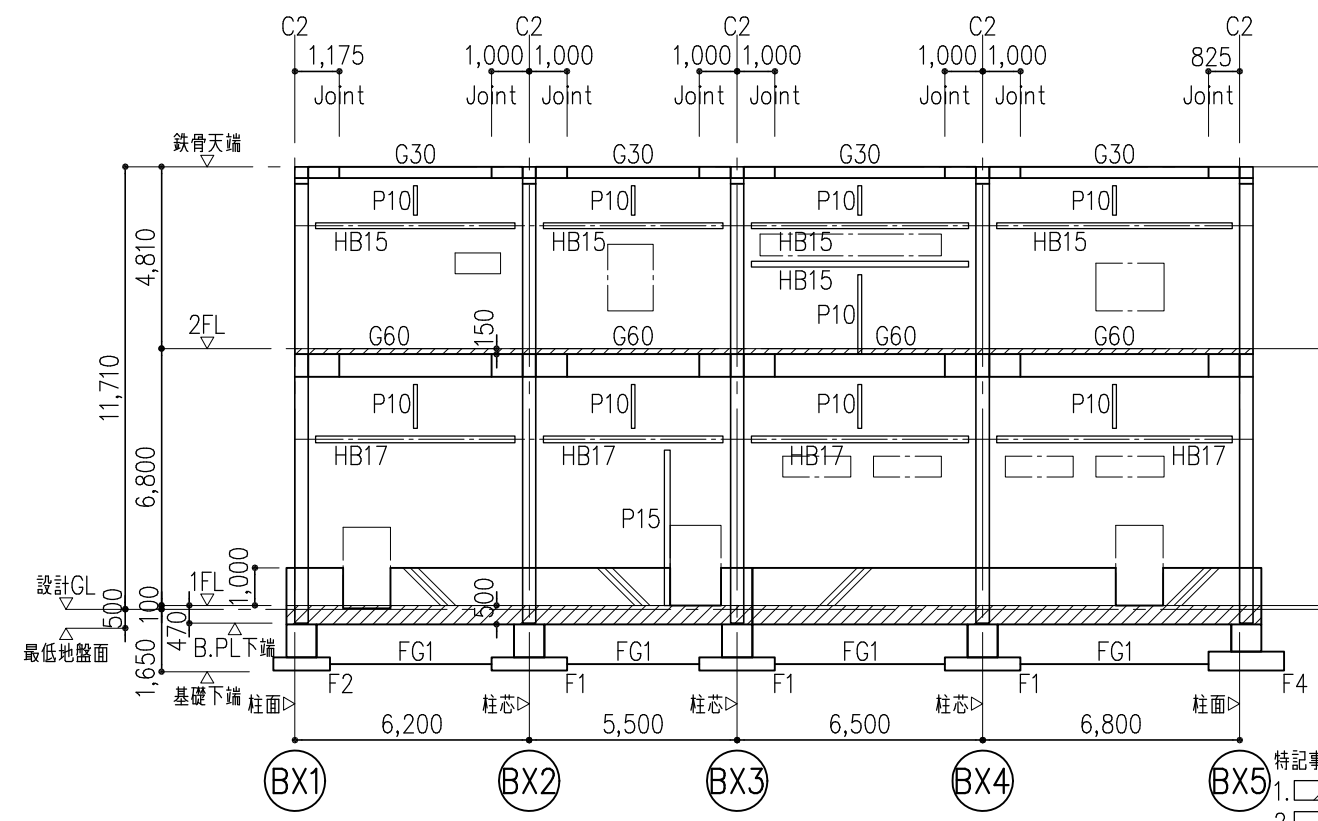
氏名・番号  
 法適合確認  
 構造関係規定に適合することを確認した  
 構造設計一級建築士 第1110号 神田勝也



BY3通り軸組図 A3 1:200



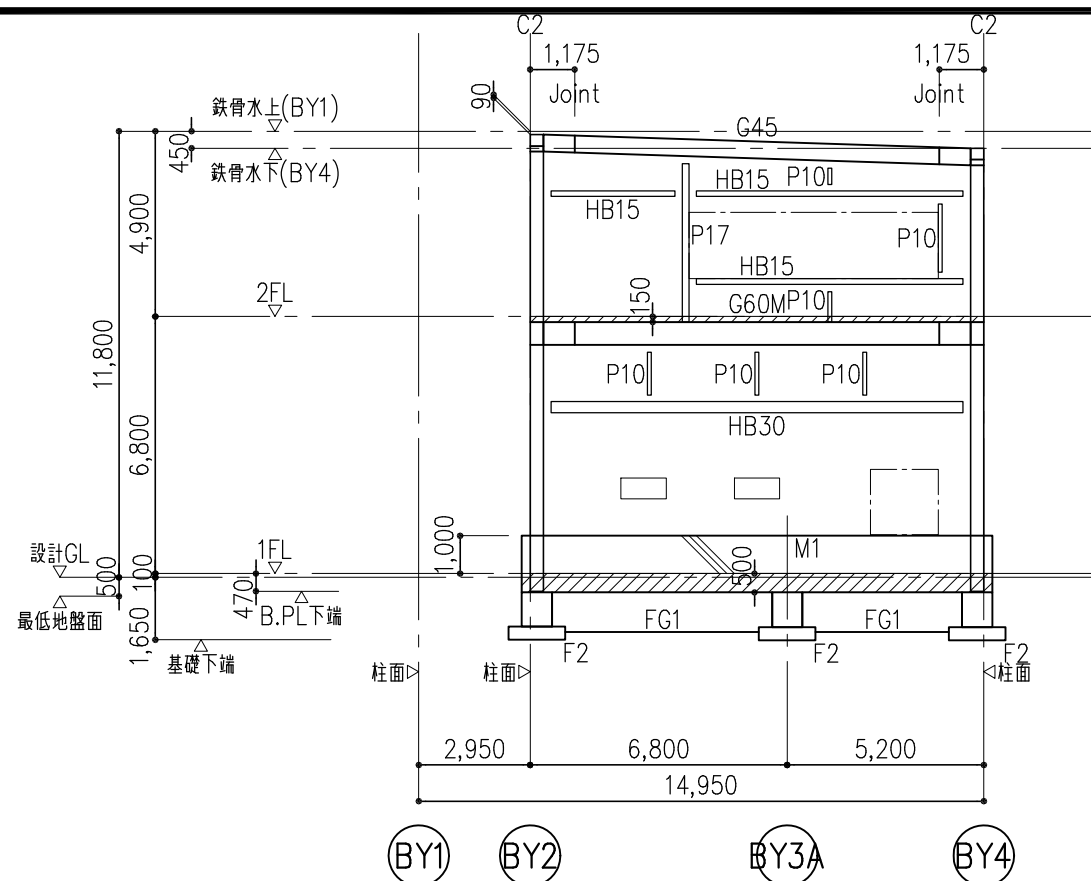
BY1通り軸組図 A3 1:200



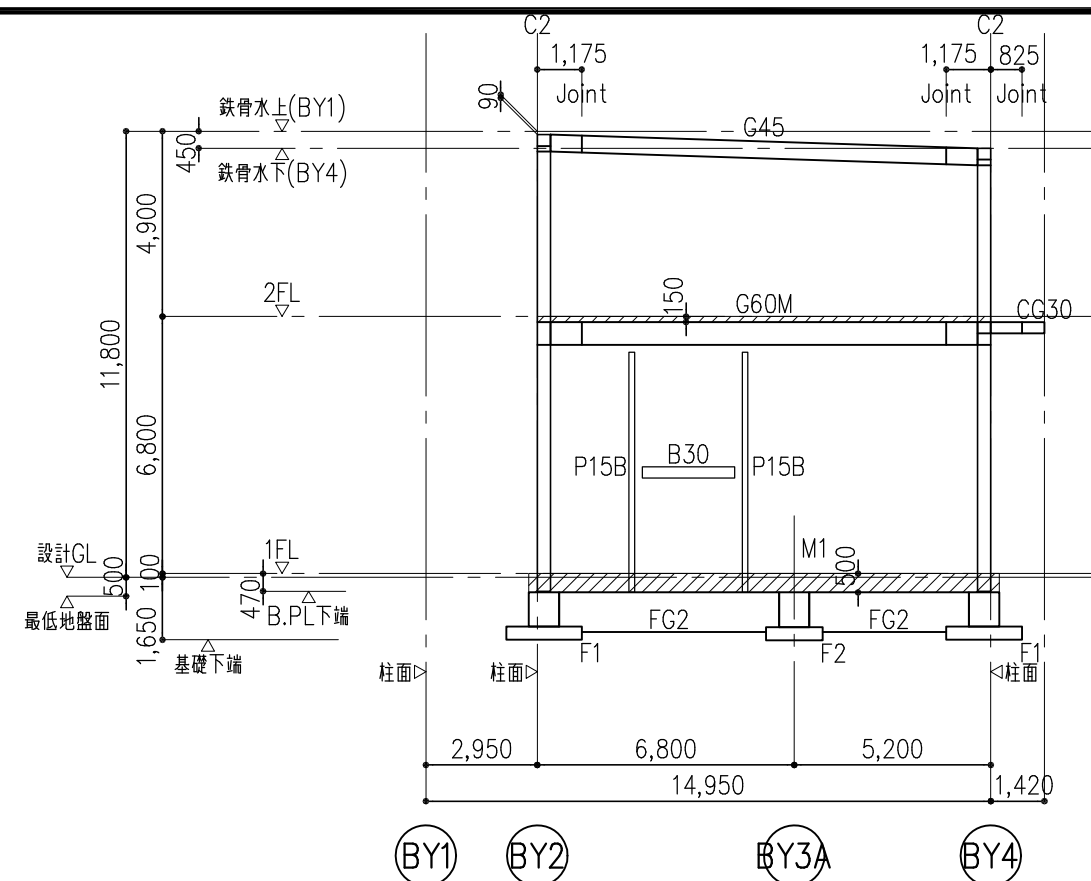
BY2通り軸組図 A3 1:200

- 特記事項 (軸組図共通)
1. は腰壁W20を示す。
  2. は腰壁W15を示す。
  3. は腰壁W12を示す。
  4. はスラブ・増打を示す。

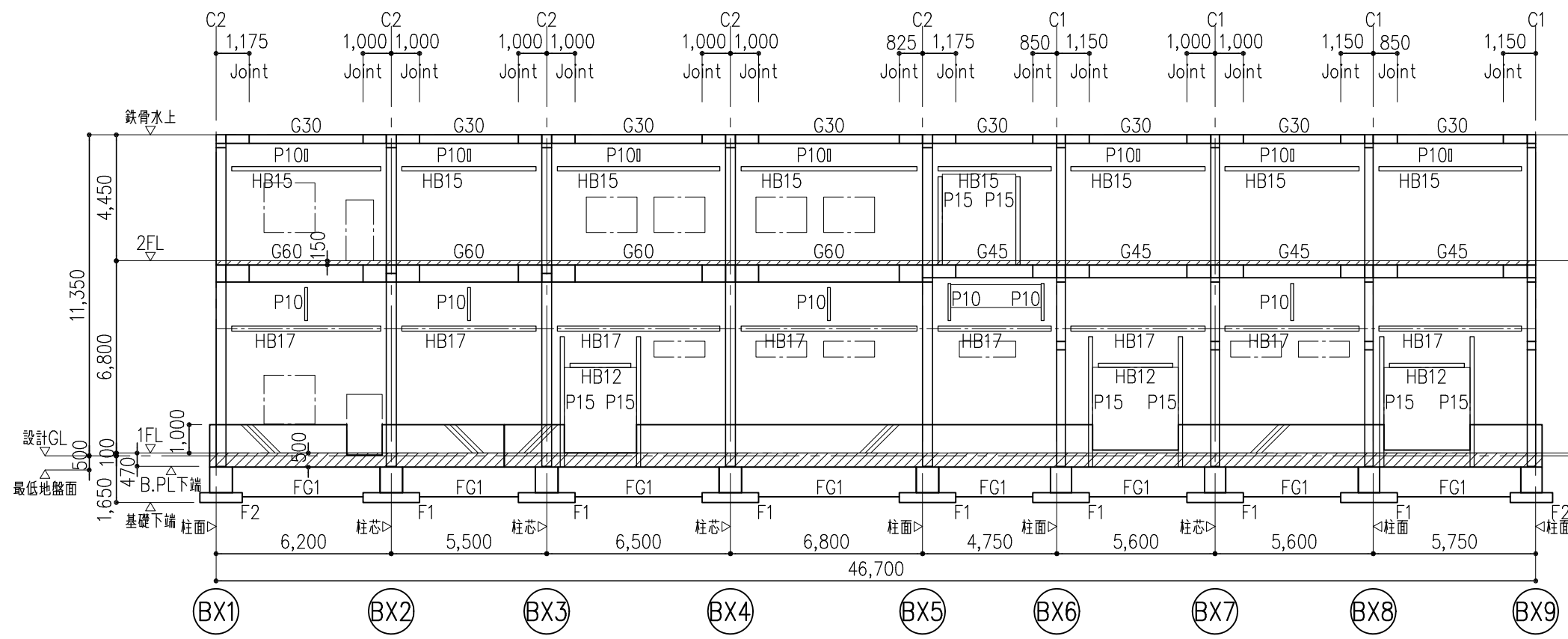
氏名・番号  
 法適合確認  
 構造関係規定に適合することを確認した  
 構造設計一級建築士 第1110号 神田勝也



BY1 通り軸組図 A3 1:200



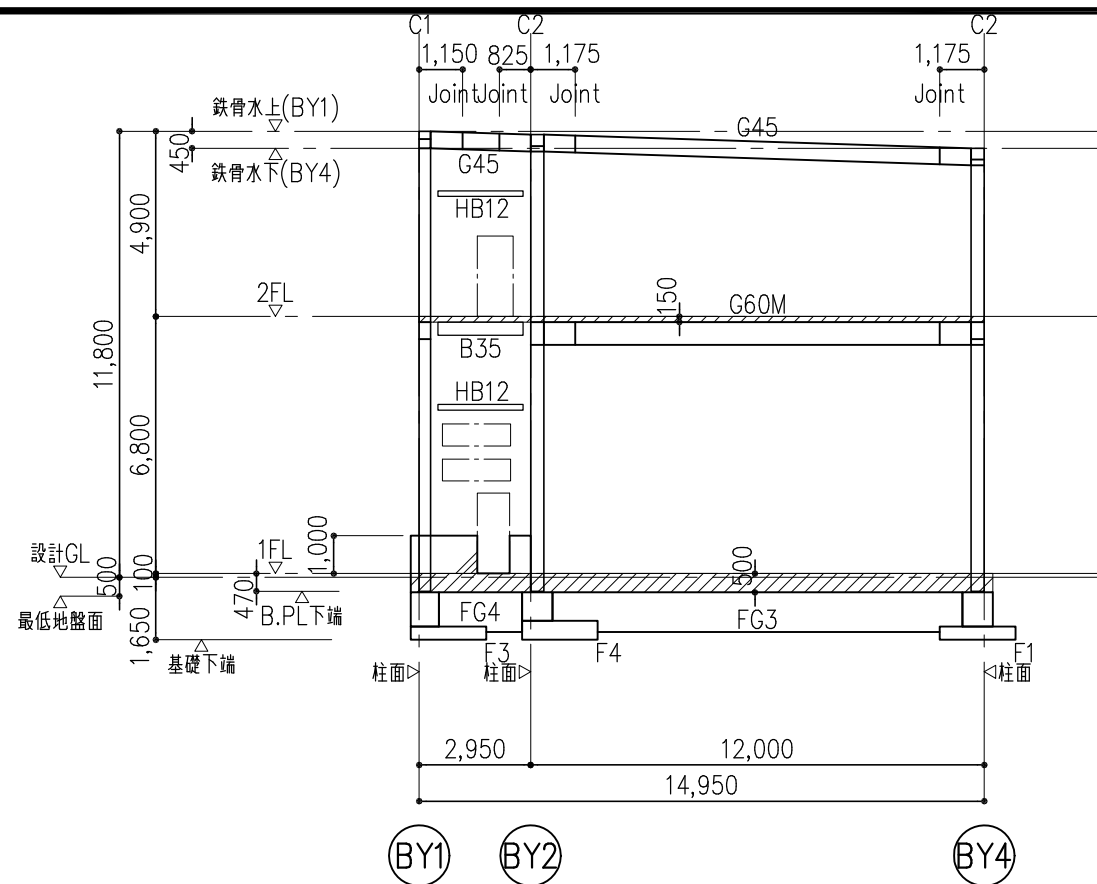
BY2 通り軸組図 A3 1:200



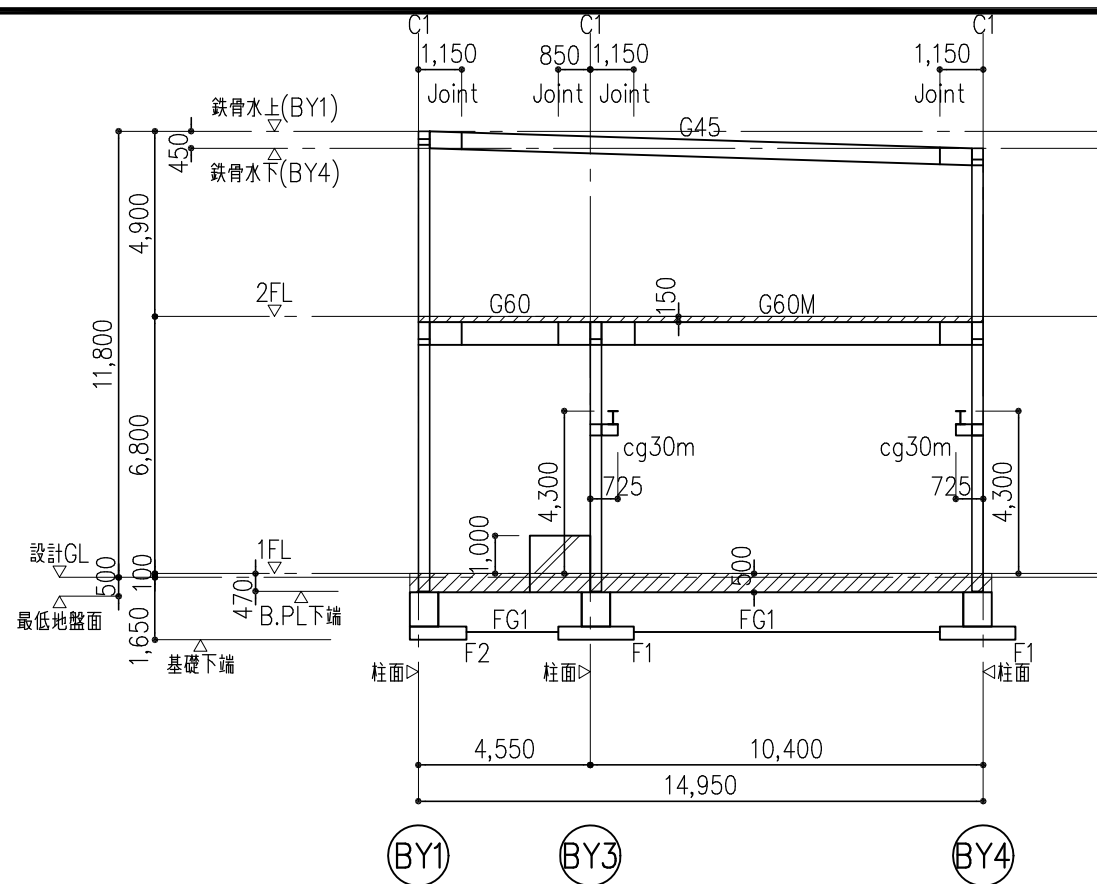
BY4 通り軸組図 A3 1:200

- 特記事項 (軸組図共通)
1. は腰壁W20を示す。
  2. は腰壁W15を示す。
  3. は腰壁W12を示す。
  4. はスラブ・増打を示す。

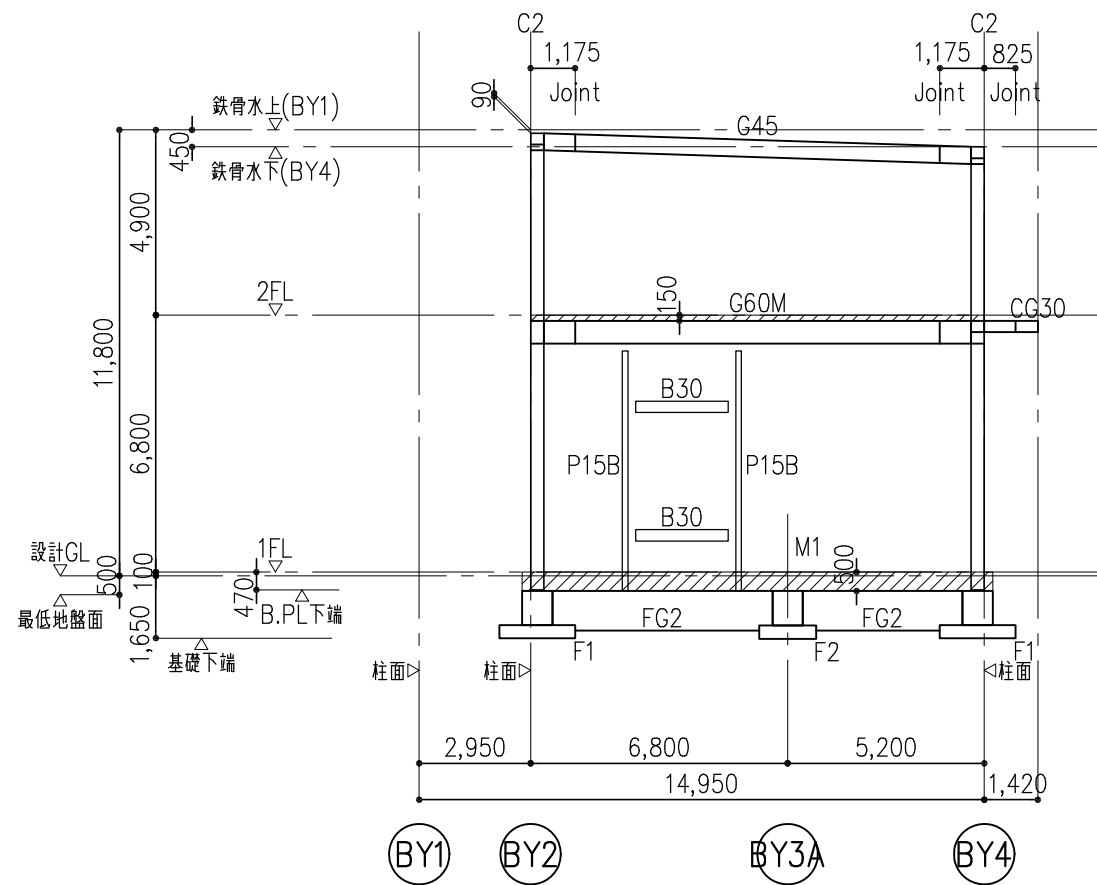
氏名・番号  
 法適合確認  
 構造関係規定に適合することを確認した  
 構造設計一級建築士 第1110号 神田勝也



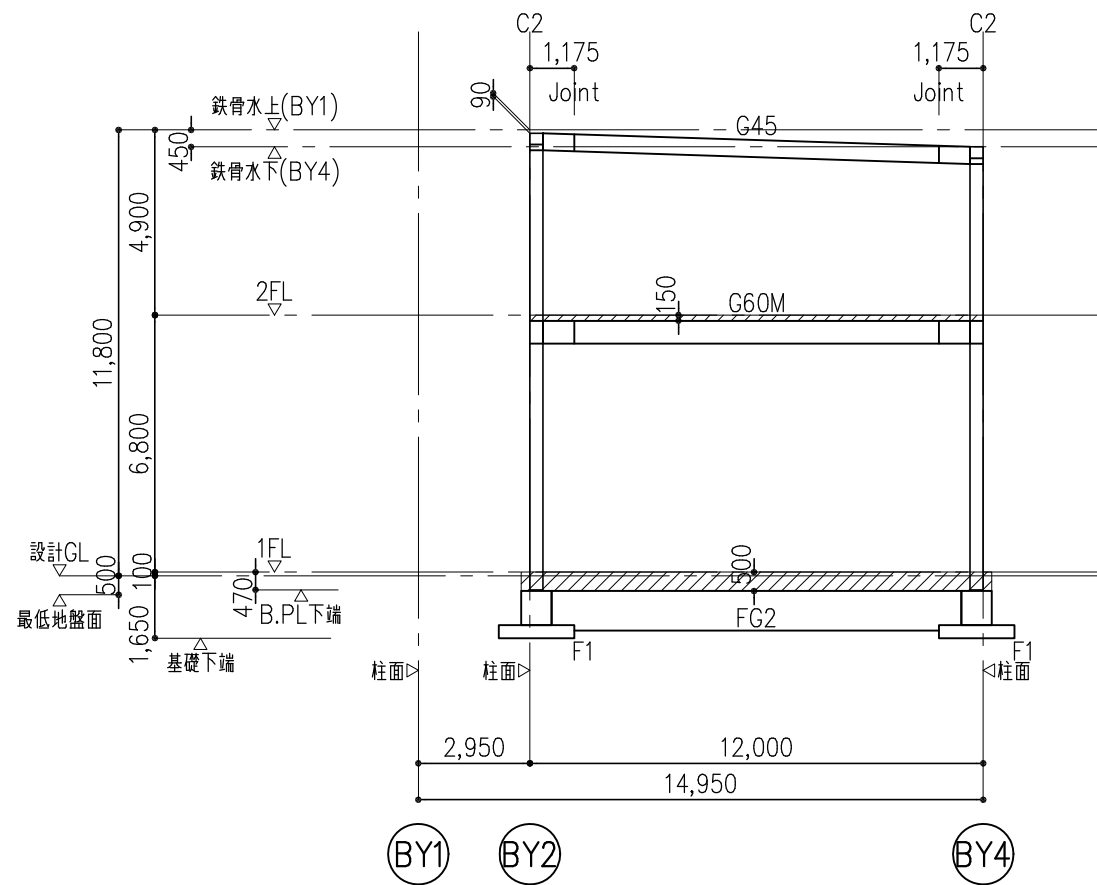
(BY1) (BY2) (BY4)  
**BX5通り軸組図** A3 1:200



(BY1) (BY3) (BY4)  
**BX6通り軸組図** A3 1:200



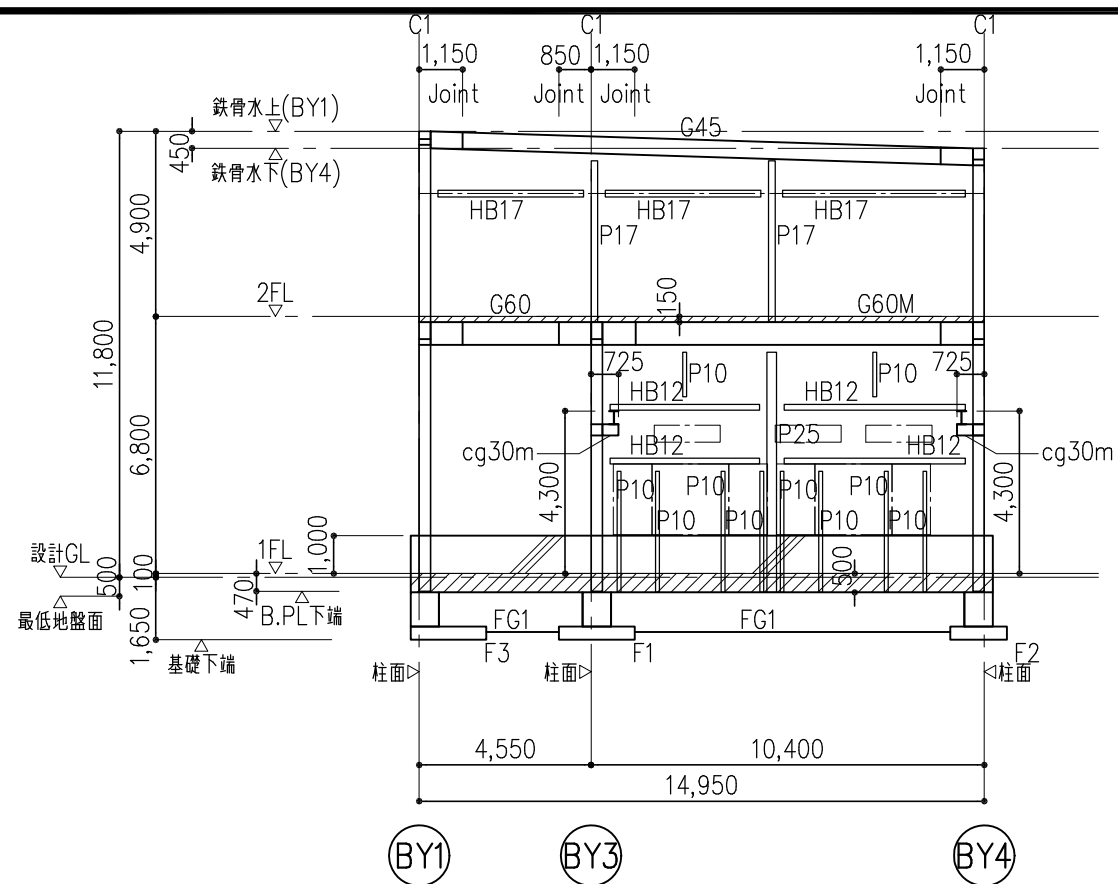
(BY1) (BY2) (BY3A) (BY4)  
**BX3通り軸組図** A3 1:200



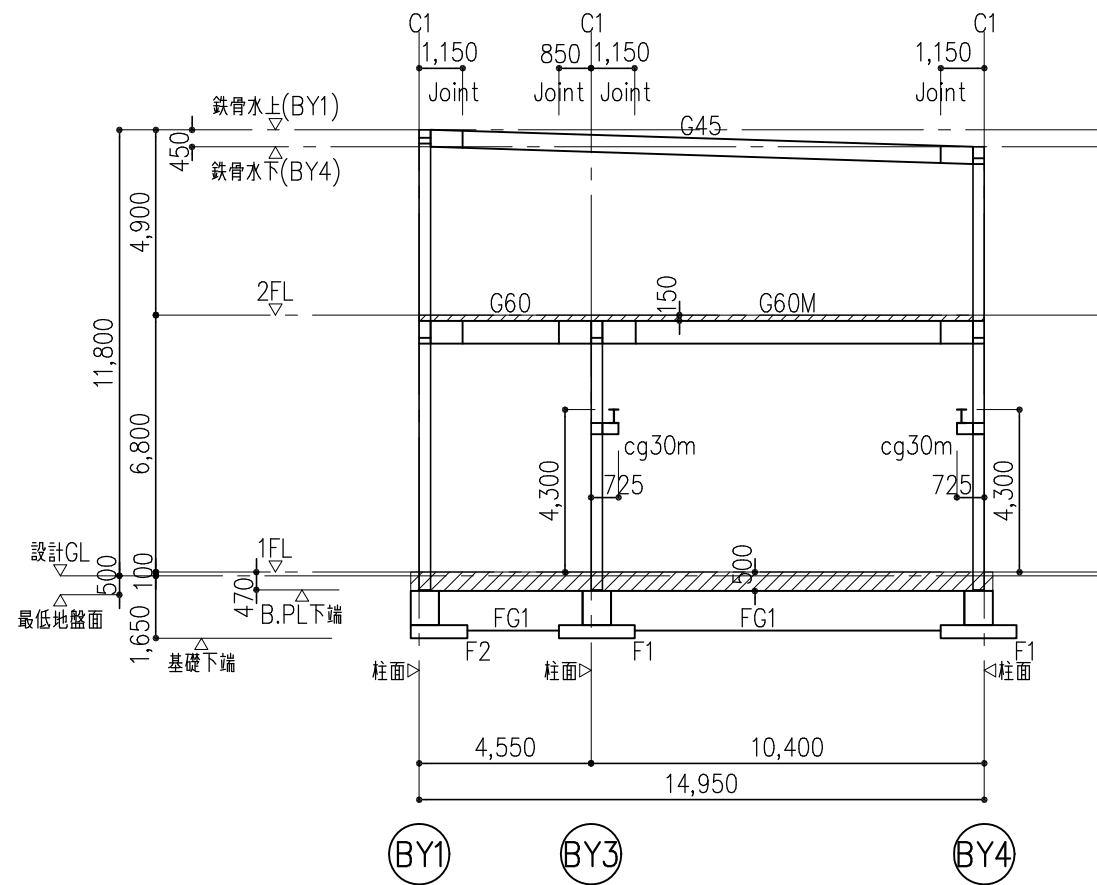
(BY1) (BY2) (BY4)  
**BX4通り軸組図** A3 1:200

- 特記事項(軸組図共通)
1. は腰壁W20を示す。
  2. は腰壁W15を示す。
  3. は腰壁W12を示す。
  4. はスラブ・増打を示す。

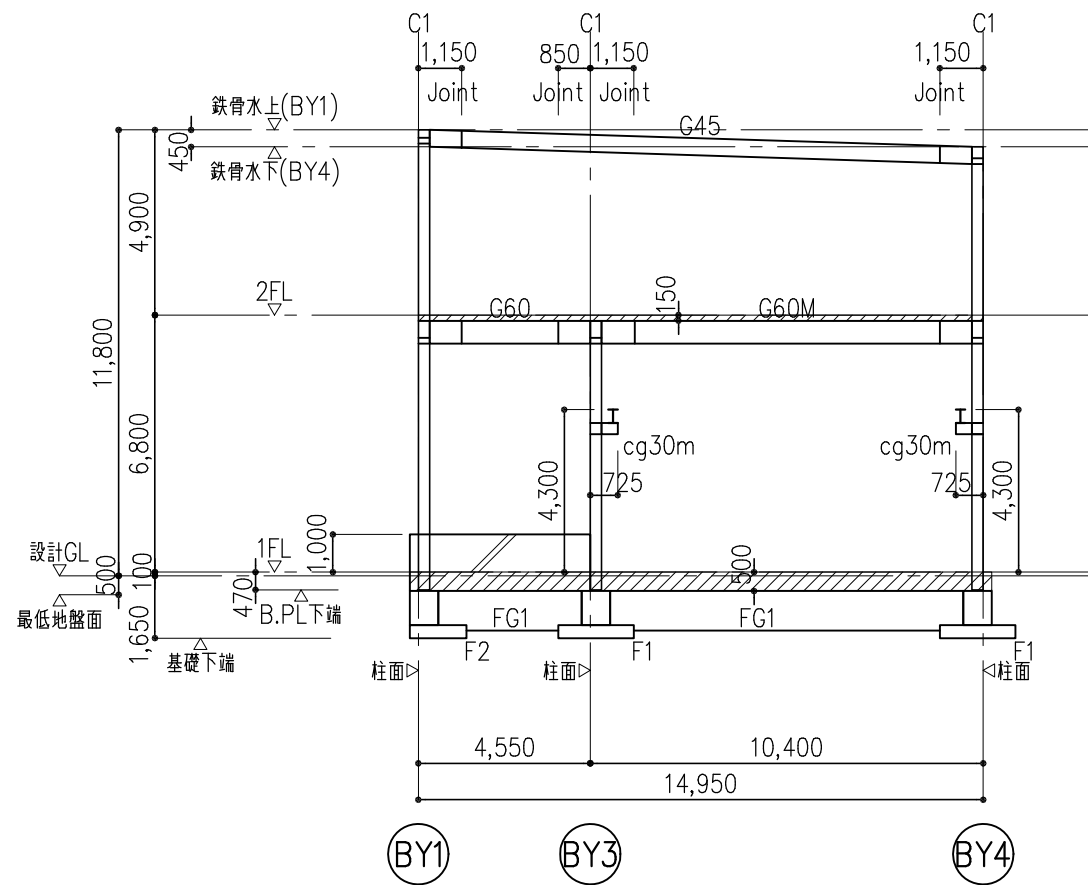
氏名・番号  
 法適合確認  
 構造関係規定に適合することを確認した  
 構造設計一級建築士 第1110号 神田勝也



BX9通り軸組図 A3 1:200



BX7通り軸組図 A3 1:200



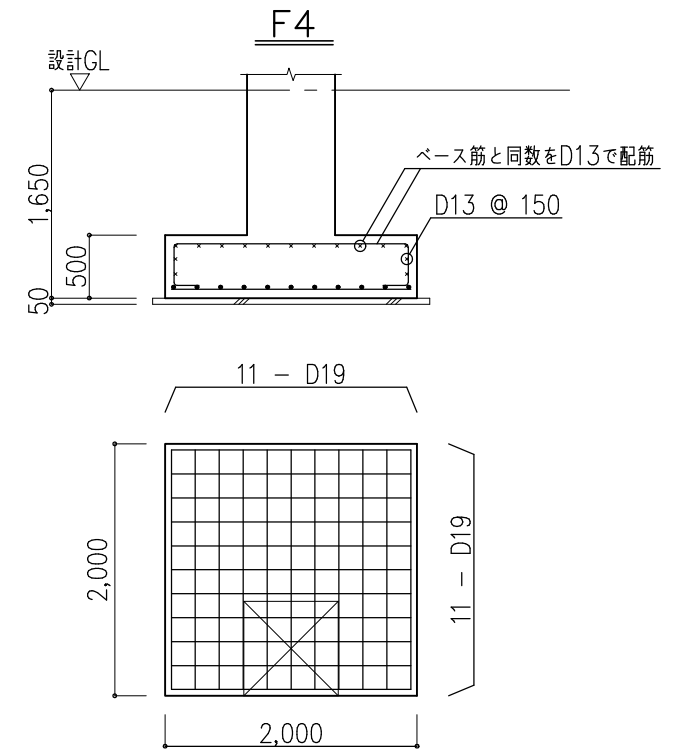
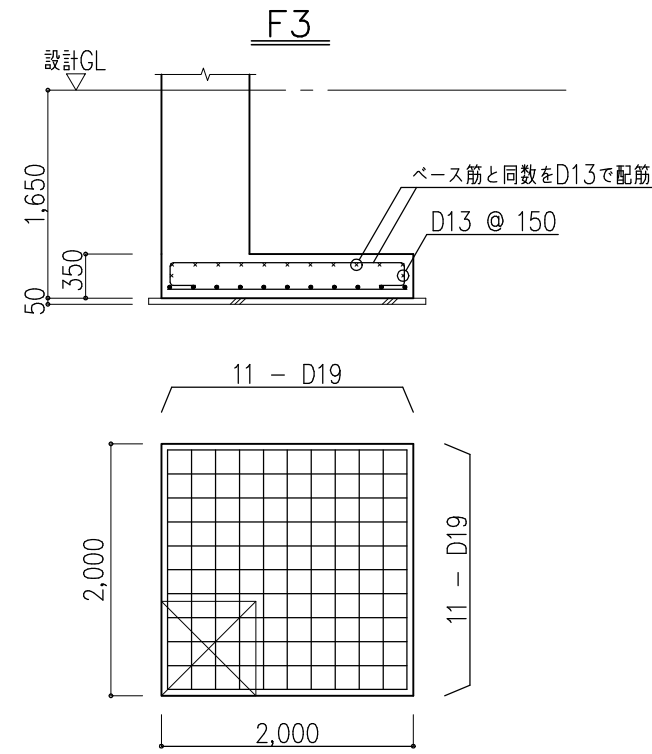
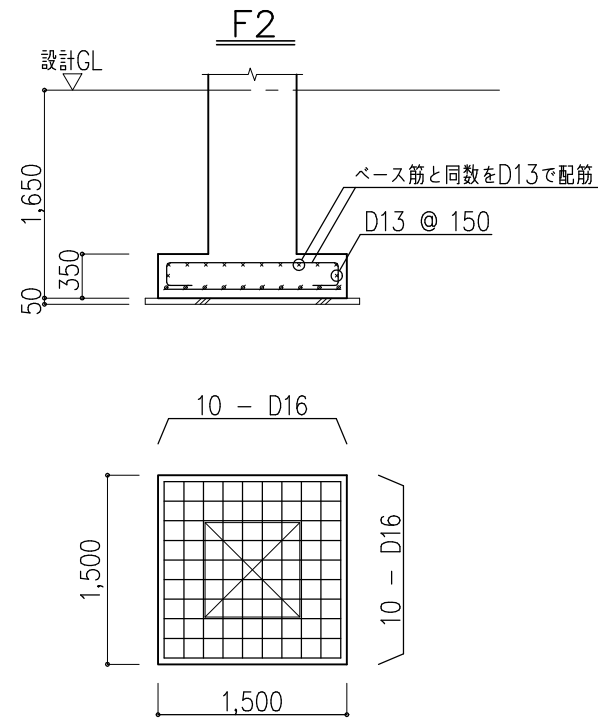
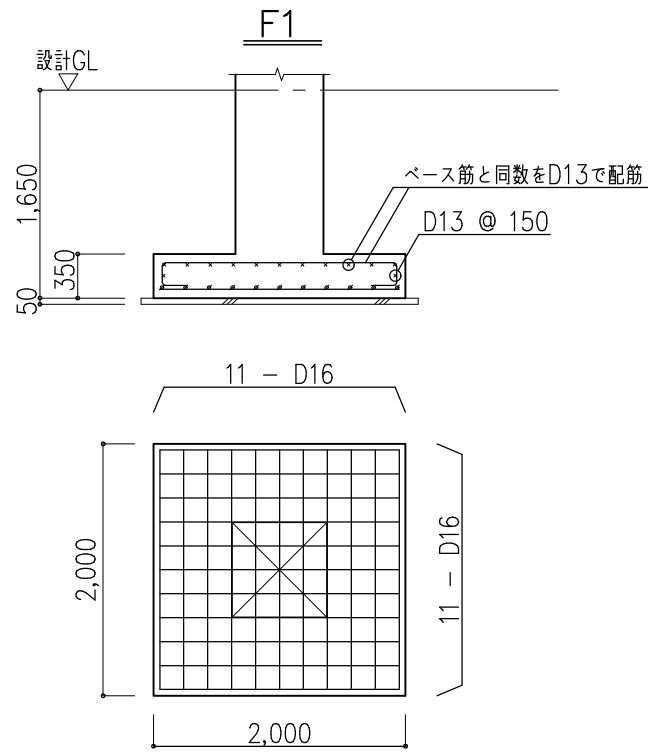
BX8通り軸組図 A3 1:200

- 特記事項 (軸組図共通)
1. は腰壁W20を示す。
  2. は腰壁W15を示す。
  3. は腰壁W12を示す。
  4. はスラブ・増打を示す。

氏名・番号  
 法適合確認  
 構造関係規定に適合することを確認した  
 構造設計一級建築士 第1110号 神田勝也



基礎リスト



氏名・番号  
法適合確認  
構造関係規定に適合することを確認した  
構造設計一級建築士 第1110号 神田勝也

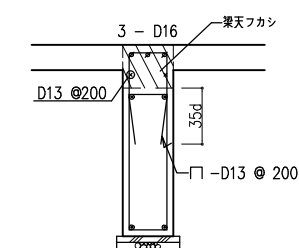
柱脚リスト

符号	C1	C2	M1
断面			
B x D	750 x 750	800 x 800	800 x 800
主筋	12 - D22 (SD345)	16 - D22 (SD345)	16 - D22 (SD345)
フープ	□-D13 @ 100 (SD295)	□-D13 @ 100 (SD295)	□-D13 @ 100 (SD295)
備考	ジャストベース J300-16K	ジャストベース J350-16K	四隅主筋はフック付き

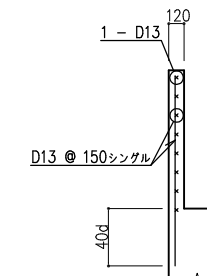
地中梁リスト 特記なき限り 巾止め筋 D10@1,000 捨てコン 厚50 砕石 厚50

符号	FG1	FG2	FG3		FG4	FB1			
位置	全断面	全断面	BY4端・中央	BY2端	全断面	BX1端・BX3端・中央	BX2端		
断面									
B x D	500 x 1050	400 x 1050	500 x 1050		500 x 1050	300 x 800			
上端筋	4-D25	4-D25	4-D25	4/2-D25	4/2-D25	3-D16	3/3-D16		
下端筋	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	3-D16	3-D16		
スターラップ	□ -D13 @ 200	□ -D13 @ 200	□ -D13 @ 200		□ -D13 @ 200	□ -D13 @ 200			
腰筋	2 - D13	2 - D13	2 - D13		2 - D13	2 - D13			
符号	FB2		FB3		FB4	FB5			
位置	BX2端	中央	BX3端	端部	中央	全断面	BX2端	中央	BX1端
断面									
B x D	300 x 1350		300 x 800		300 x 1350	300 x 650			
上端筋	3/3-D16	3-D16	3-D16	3-D16	3-D16	3-D16	4/4-D16	4-D16	4-D16
下端筋	3-D16	3/3-D16	3-D16	3-D16	3/2-D16	3-D16	4-D16	4/2-D16	4-D16
スターラップ	□ -D13 @ 200		□ -D13 @ 200		□ -D13 @ 200	□ -D13 @ 200			
腰筋	4 - D13		2 - D13		4 - D13	2 - D13			

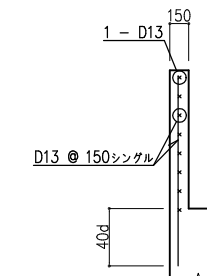
1F 梁上増打配筋図



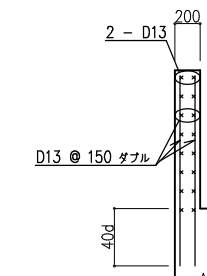
腰壁W12



腰壁W15



腰壁W20



スラブリスト

符号	版厚	位置	短辺方向(主筋方向)			長辺方向(配力筋方向)			備考
			端部	中央	周辺部	端部	中央	周辺部	
S1	150	上端筋	D10D13 @ 200	←	←	D10 @ 200	←	←	フラットデッキh=75 t1.0 (Z27)
		下端筋	D10 @ 200	←	←	D10 @ 200	←	←	
S2	200	上端筋	D10D13 @ 200	←	←	D10 @ 200	←	←	在来型枠
		下端筋	D10 @ 200	←	←	D10 @ 200	←	←	
S3	120	上端筋	D10 @ 200	←	←	D10 @ 200	←	←	フラットデッキh=75 t1.0 (Z27)
		下端筋		←	←		←	←	
FS1	250	上端筋	D13 @ 200	←	←	D13 @ 200	←	←	砕石50 捨てコン50
		下端筋	D10 @ 200	←	←	D10 @ 200	←	←	
土間	200	上端筋	D10D13 @ 200	←	←	D10 @ 200	←	←	土間下地盤改良H1000 セメント系固化材100kg/m3
		下端筋	D10 @ 200	←	←	D10 @ 200	←	←	

氏名・番号  
 法適合確認  
 構造関係規定に適合することを確認した  
 構造設計一級建築士 第1110号 神田勝也

鉄骨リスト

- 1.ダイヤフラム鉄骨仕様 通しダイヤフラムは取り合う材厚の2サイズUPとし SN490C  
内ダイヤフラムは取り合う材厚の1サイズUPとし SN490B
- 2.RCスラブの取り付く梁にはスタットボルト使用 大梁上 19φ @200 ダブル L=100  
小梁上 19φ @200 シングル L=100
- 3.屋外に面する鉄骨部材は溶融亜鉛メッキ仕上げとし、接続ボルトはFBTとする。

符号	鉄骨主材	材質	備考
2C1	□ - 300 x 300 x 12	BCR295	
1C1	□ - 300 x 300 x 16	BCR295	ジャストベース J300-16K
2C2	□ - 350 x 350 x 12	BCR295	
1C2	□ - 350 x 350 x 16	BCR295	ジャストベース J350-16K
G60M	H - 588 x 300 x 12 x 20	SS400	
G60	H - 600 x 200 x 11 x 17	SS400	
G45	H - 450 x 200 x 9 x 14	SS400	
G30	H - 300 x 150 x 6.5 x 9	SS400	
CG30	H - 300 x 150 x 6.5 x 9	SS400	
CG15M	H - 148 x 100 x 6 x 9	SS400	
CG15	H - 150 x 75 x 5 x 7	SS400	
B40	H - 400 x 200 x 8 x 13	SS400	
B35	H - 350 x 175 x 7 x 11	SS400	
B30	H - 300 x 150 x 6.5 x 9	SS400	
B25	H - 250 x 125 x 6 x 9	SS400	
B20	H - 200 x 100 x 5.5 x 8	SS400	
B15	H - 150 x 75 x 5 x 7	SS400	
B0	H - 150 x 75 x 5 x 7	SS400	
P25	H - 250 x 250 x 6.5 x 9	SS400	
P17	H - 175 x 175 x 7.5 x 11	SS400	
P15	H - 150 x 150 x 7 x 10	SS400	
P15B	□ - 150 x 150 x 6	STKR400	
P10	H - 100 x 100 x 6 x 8	SS400	
HB30	H - 300 x 300 x 10 x 15	SS400	
HB17	H - 175 x 175 x 7.5 x 11	SS400	
HB15	H - 150 x 150 x 7 x 10	SS400	
HB12	H - 125 x 125 x 6.5 x 9	SS400	
SV1	1 - M20	SS400	JIS規格品 ターンバックル付き
根太	L - 75 x 75 x 9	SS400	φ600 タテヨコ G.PL-6 中ボルト2-M12
cg30m	H - 294 x 200 x 8 x 12	SS400	
レール架台	H - 340 x 250 x 9 x 14	SS400	

柱脚詳細図

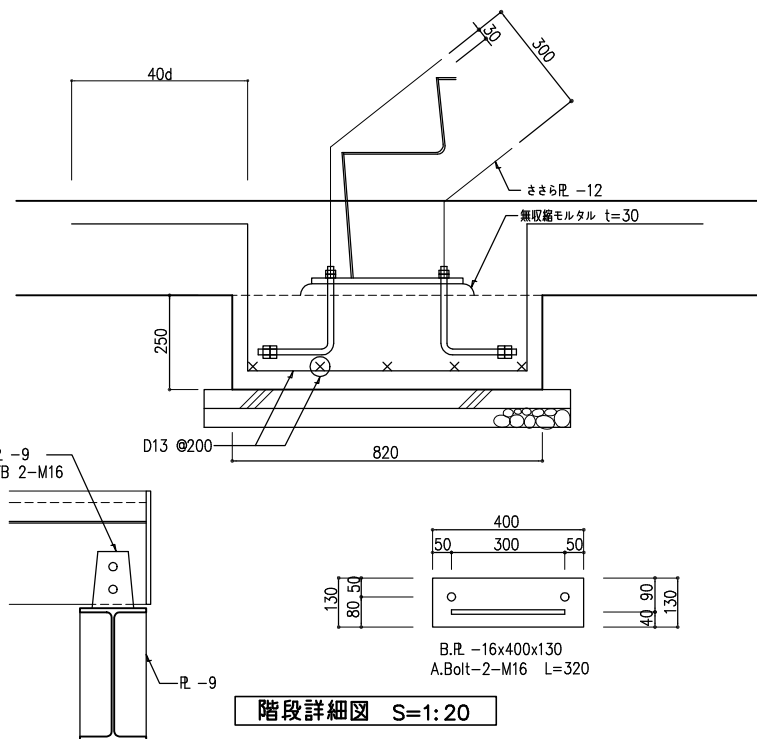
部材	1C1 □ - 300 x 300 x 16	1C2 □ - 350 x 350 x 16
断面		
アンカーボルト	8 - D35 (SD390) L=720	8 - D35 (SD490) L=725
ベースプレート	540 x 540 x 40 (SN490B)	600 x 600 x 50 (TMCP325)
備考	ジャストベース J300-16K	ジャストベース J350-16K

プレース仕口リスト

部材	SV1 1 - M20
断面	
HTB	HTB 1 - M20
ガセットプレート	GPL - 9
備考	ターンバックル 鋼 JIS規格品

大梁継手リスト SS400

G60M	H - 588 x 300 x 12 x 20	G60	H - 600 x 200 x 11 x 17	G45	H - 450 x 200 x 9 x 14	G30	H - 300 x 150 x 6.5 x 9	B20	H - 200 x 100 x 5.5 x 8	CG15M	H - 148 x 100 x 6 x 9
フランジ	8-M22 PL-12x300x440 2PL-16x110x440	フランジ	6-M22 PL-12x200x410 2PL-12x 80x410	フランジ	6-M20 PL-12x200x410 2PL-12x 80x410	フランジ	4-M20 PL- 9x150x290 2PL- 9x 60x290	フランジ	4-M16 PL- 16x100x290	フランジ	4-M16 PL- 16x100x290
ウェブ	7-M22 2PL- 9x440x170	ウェブ	7-M22 2PL- 9x440x170	ウェブ	5-M20 2PL- 9x320x170	ウェブ	2-M20 2PL- 6x200x170	ウェブ	2-M16 2PL- 6x140x170	ウェブ	2-M16 2PL- 6x 80x290



氏名・番号  
 法適合確認  
 構造関係規定に適合することを確認した  
 構造設計一級建築士 第1110号 神田勝也

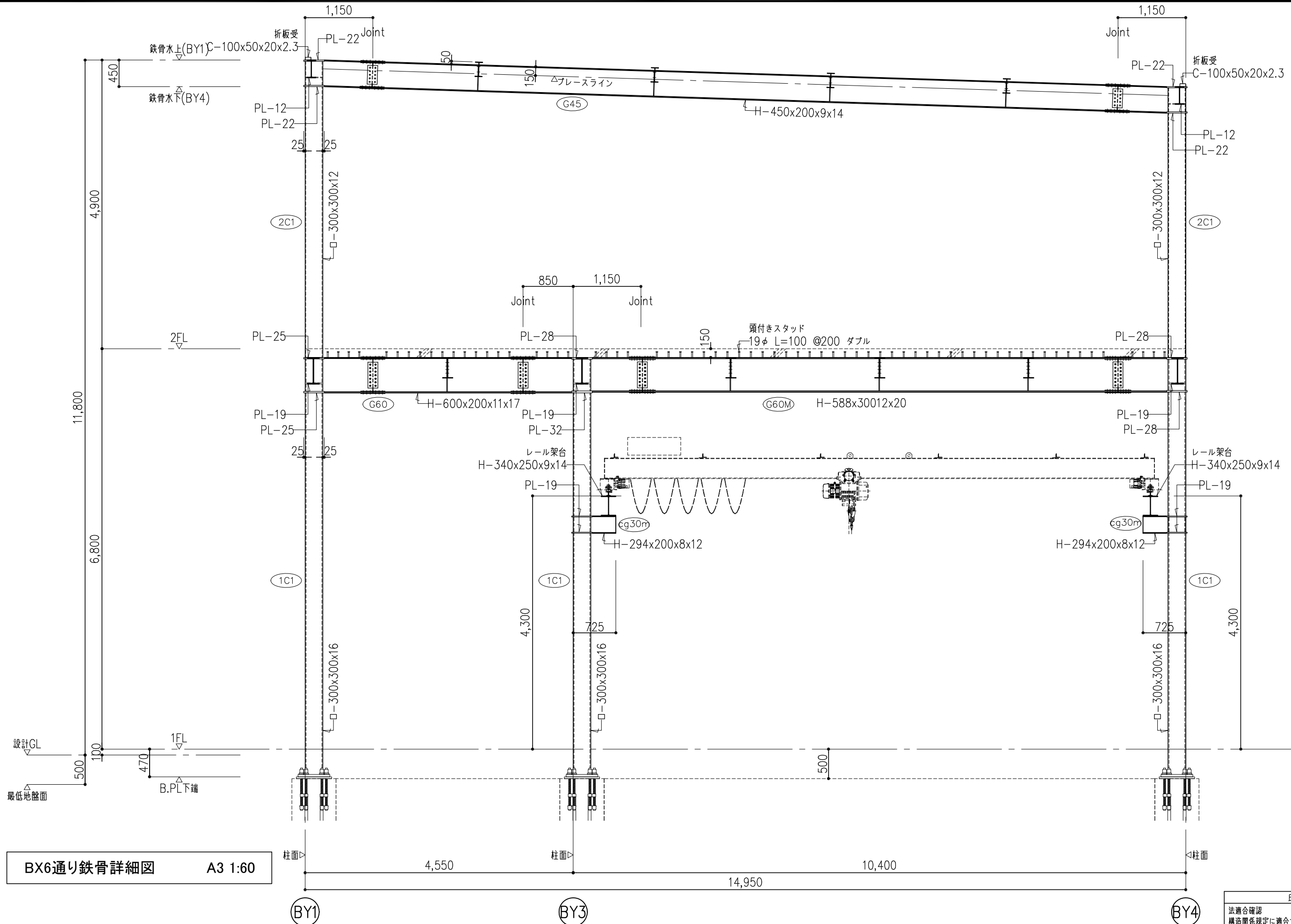
ピン接合リスト

鉄骨	(B40) H - 400 x 200 x 8 x 13	(B35) H - 350 x 175 x 7 x 11	(B30) H - 300 x 150 x 6.5 x 9	(B25) H - 250 x 125 x 6 x 9	(B20) H - 200 x 100 x 5.5 x 8	(B15) H - 150 x 75 x 5 x 7	(B0) H - 150 x 75 x 5 x 7	(HB30) H - 300 x 300 x 10 x 15
詳細								
HTB	HTB 5-M20	HTB 4-M22	HTB 3-M20	HTB 4-M22	HTB 2-M20	HTB 2-M16	HTB 2-M20	HTB 3-M22
ガセットプレート	PL- 12	PL- 12	PL- 9	PL- 12	PL- 9	PL- 9	PL- 12	PL- 16
鉄骨	(P25) H - 250 x 250 x 9 x 14	(P17) H - 175 x 175 x 7.5 x 11	(P15) H - 150 x 150 x 7 x 10	(P15B) □ - 150 x 150 x 6	(HB12) H - 125 x 125 x 6.5 x 9	(P10) H - 100 x 100 x 6 x 8		
詳細		(HB17)	(HB15)					
HTB	HTB 2-M22	HTB 2-M20	HTB 2-M20	HTB 2-M20	HTB 2-M20	HTB 2-M16		
ガセットプレート	PL- 12	PL- 9	PL- 9	PL- 9	PL- 9	PL- 9		

周柱柱脚詳細図 SS400

部材	(P25) H - 250 x 250 x 9 x 14	(P17) H - 175 x 175 x 7.5 x 11	(P15) H - 150 x 150 x 7 x 10	(P15B) □ - 150 x 150 x 6	(P10) H - 100 x 100 x 6 x 8	定着
断面						
アンカーボルト	A.BOLT 2 - M27	A.BOLT 2 - M24	A.BOLT 2 - M20	A.BOLT 2 - M20	A.BOLT 2 - M16	
ベースプレート	B.PL- 22 x 290 x 310	B.PL- 19 x 220 x 220	B.PL- 16 x 190 x 190	B.PL- 12 x 200 x 350	B.PL- 12 x 130 x 170	
リブプレート						

氏名・番号  
 法適合確認  
 構造関係規定に適合することを確認した  
 構造設計一級建築士 第1110号 神田勝也



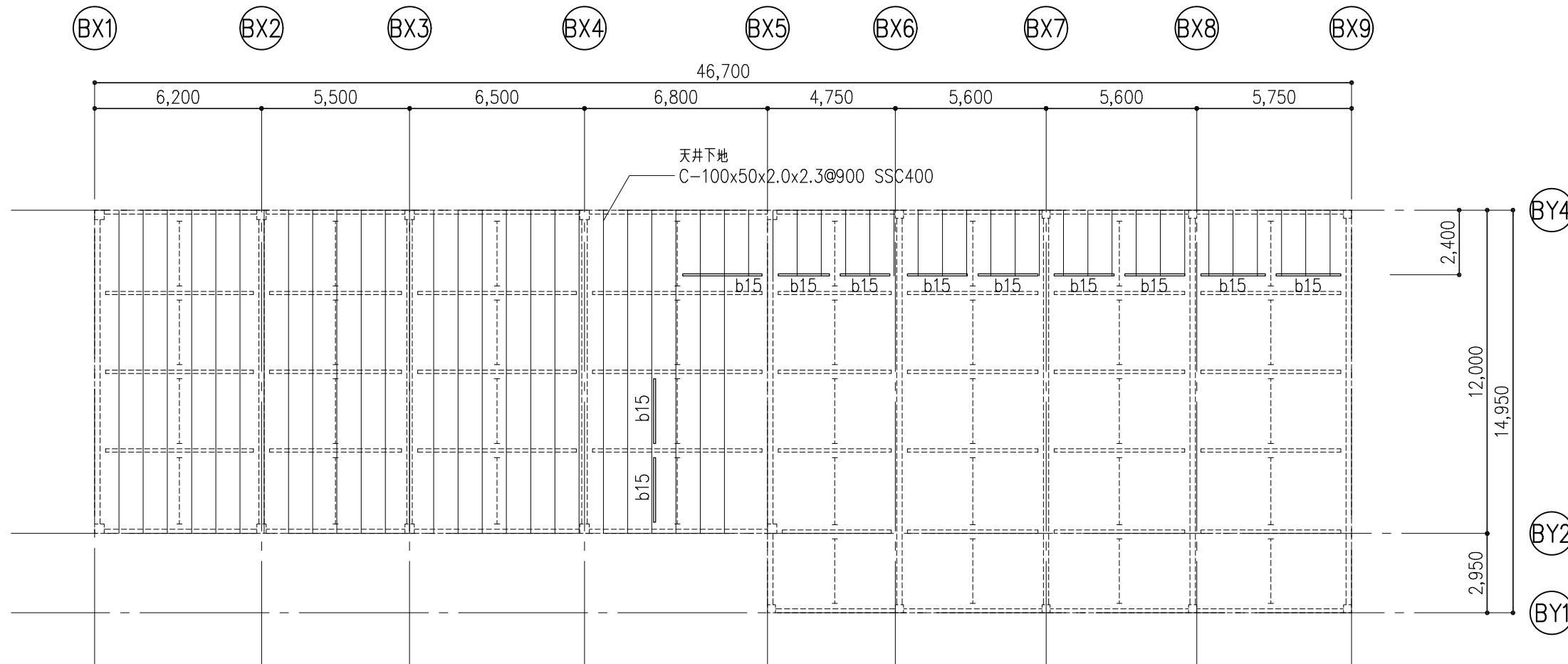
BX6通り鉄骨詳細図 A3 1:60

氏名・番号  
 法適合確認  
 構造関係規定に適合することを確認した  
 構造設計一級建築士 第1110号 神田勝也

株式会社 朝日設計 一級建築士事務所  
 1級建築士事務所 東京都登録 第45991号 1級建築士登録 第278653号 高橋義弘

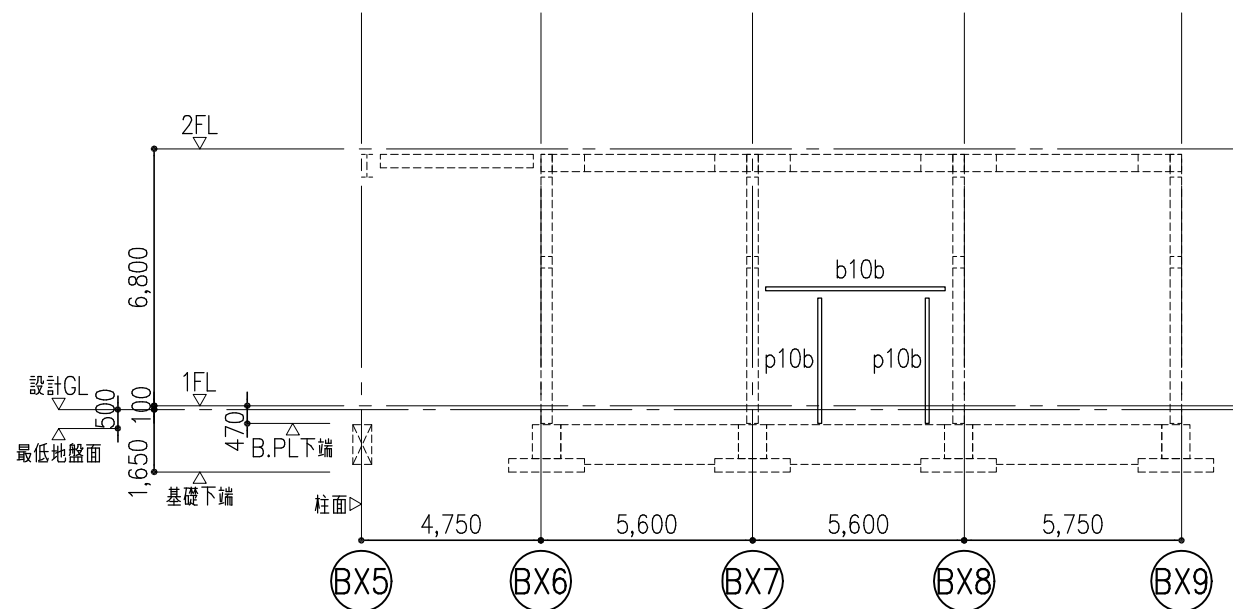
PROJECT 東安房漁業協同組合 加工処理施設(ヒキ加工工場)整備工事  
 PRJ-NO. 00-00 TITLE 鉄骨詳細図

DATE 23.02.28 NO. C-20  
 SCALE A3:1/60



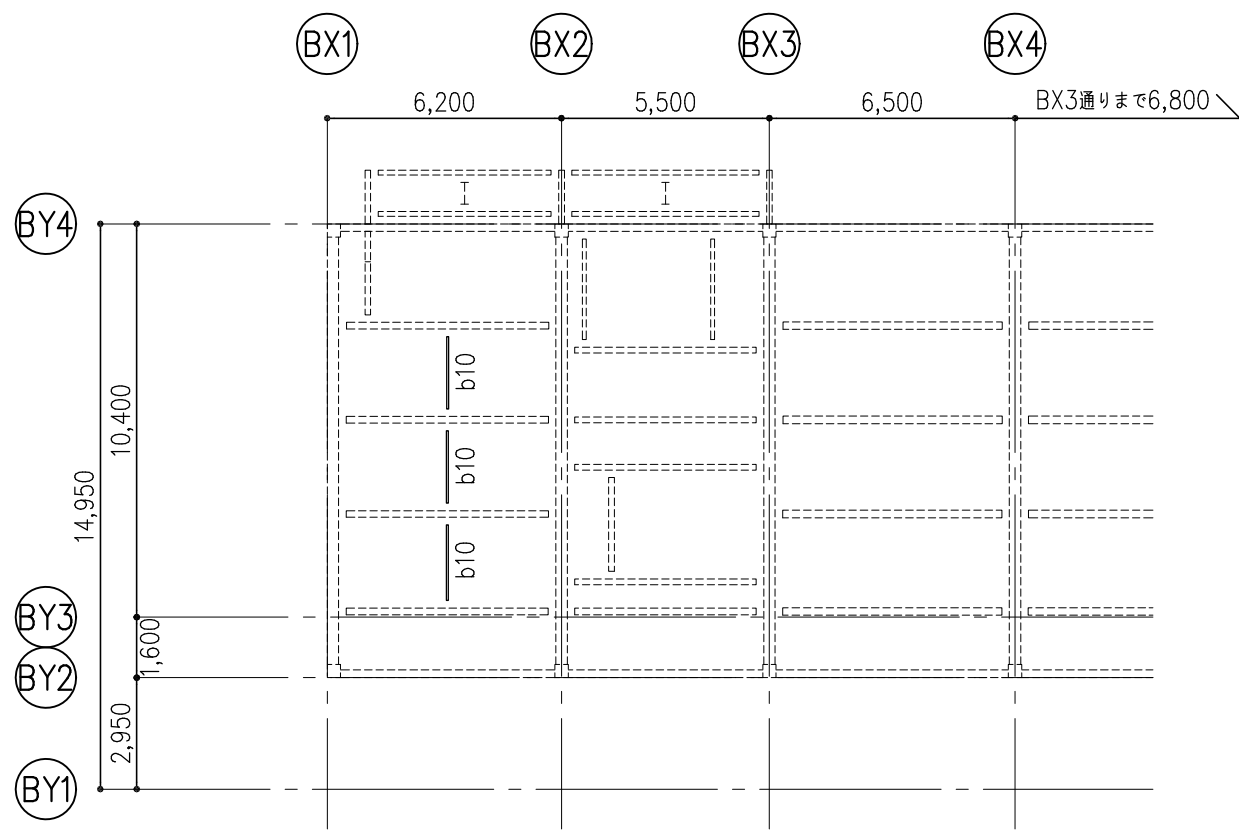
R階補助部材図 A3 1:200

b15 : H-150x75x5x7 (B0同材) SS400



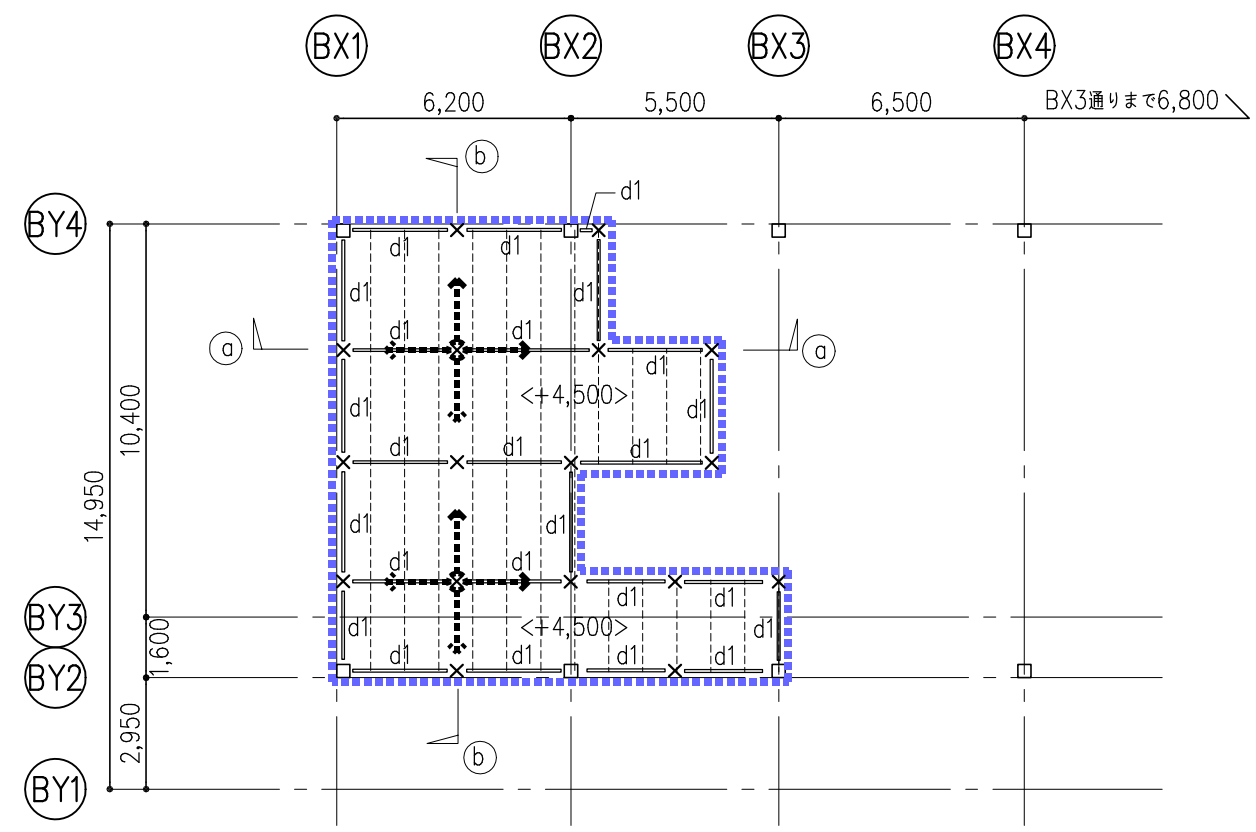
BY3通り補助部材図 A3 1:200

b10b : □-100x100x2.3 STKR400  
p10b : □-100x100x2.3 STKR400



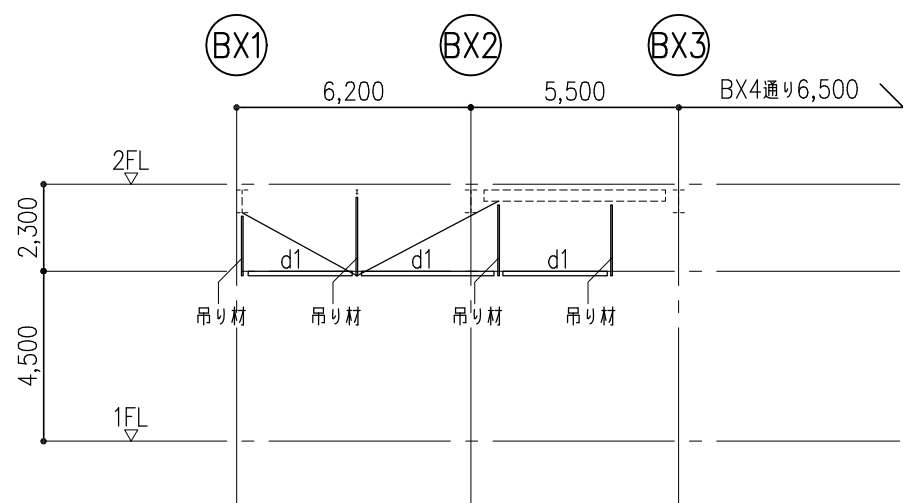
b10: H-100x50x5x7 SS400

2階補助部材図 A3 1:200

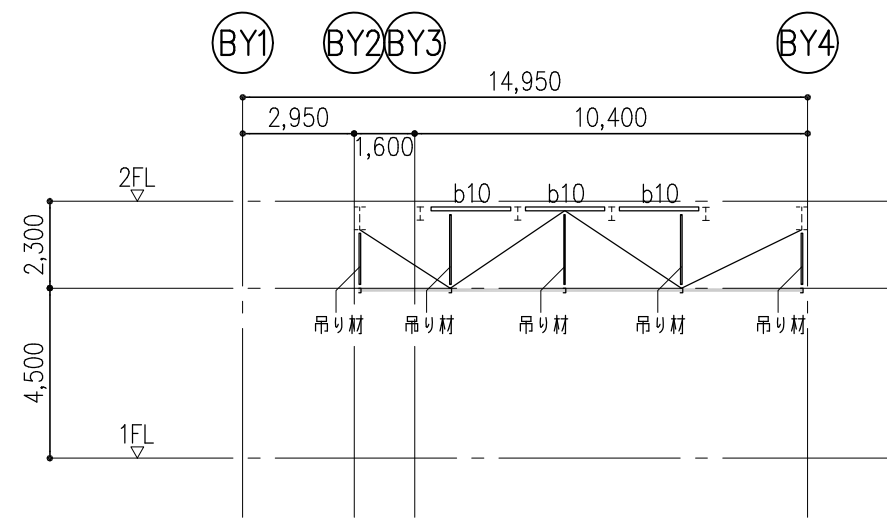


- ..... ブドウ棚設置範囲
- < > 内数値は1FLからの梁天端レベルを示す。
- 野縁: C-100x50x20x3.2@900 SSC400
- 斜め材: 1-M16 JIS規格品ターンバックル付き
- d1 □ -125x65x6x8 SS400
- X 吊り材 (□ -75x40x5x7) の設置位置
- \*野縁ではなくd1材を吊る

ブドウ棚図 A3 1:200



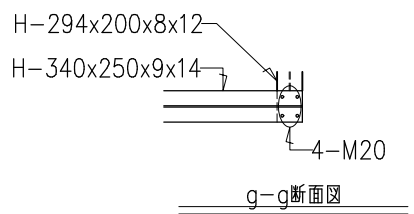
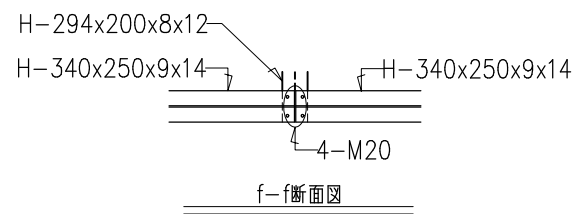
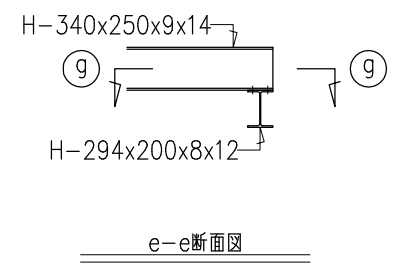
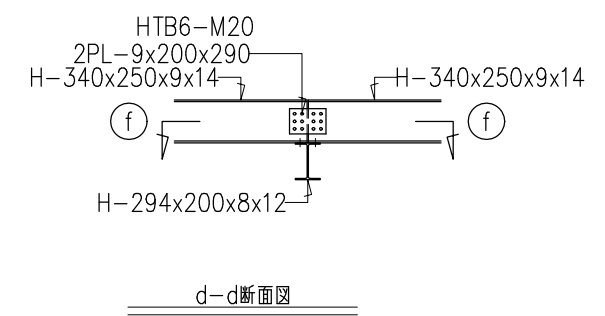
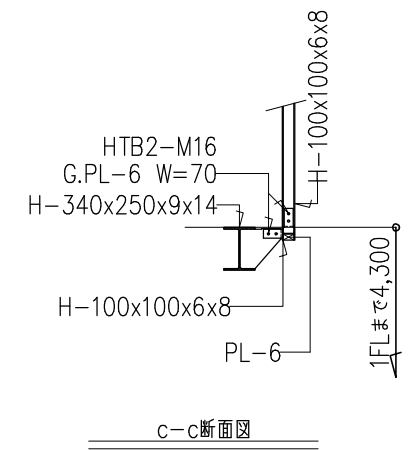
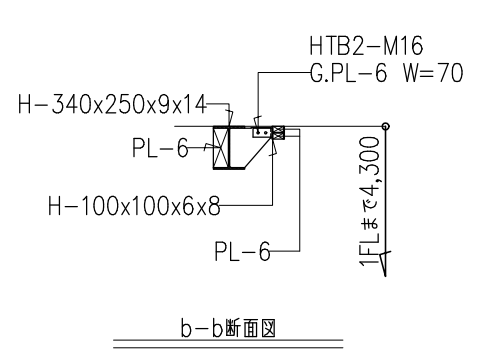
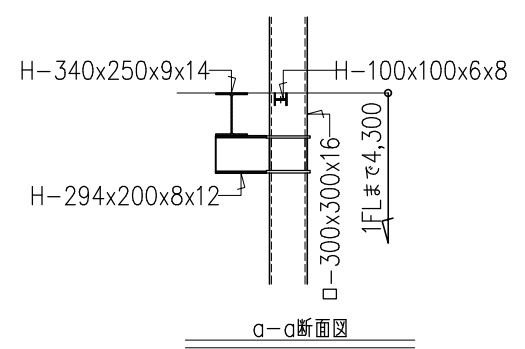
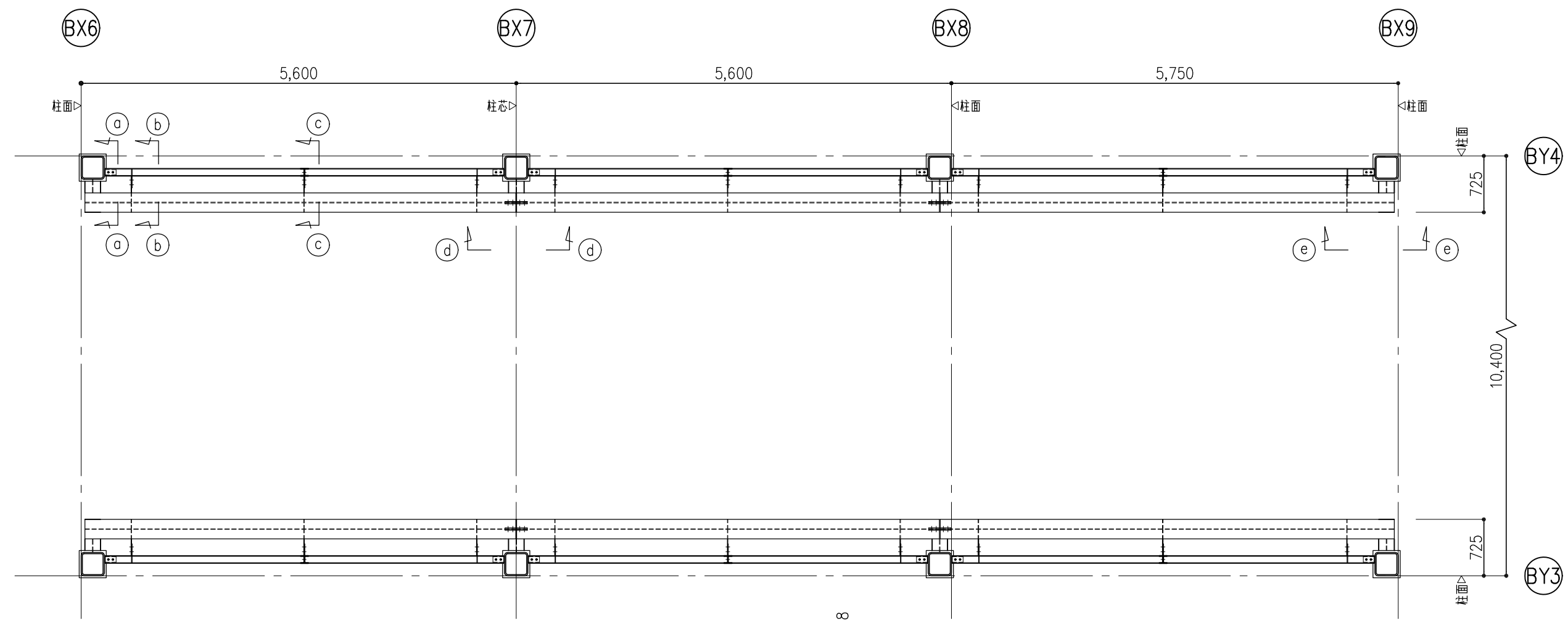
㉑ - ㉑ 断面

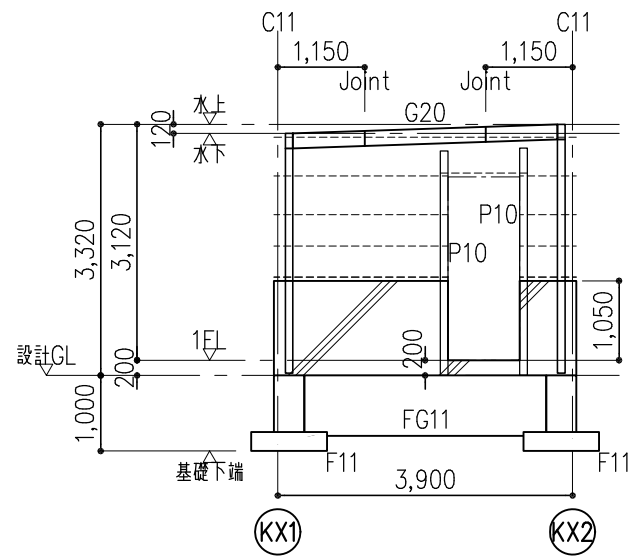


㉒ - ㉒ 断面

----- は野縁を示す。

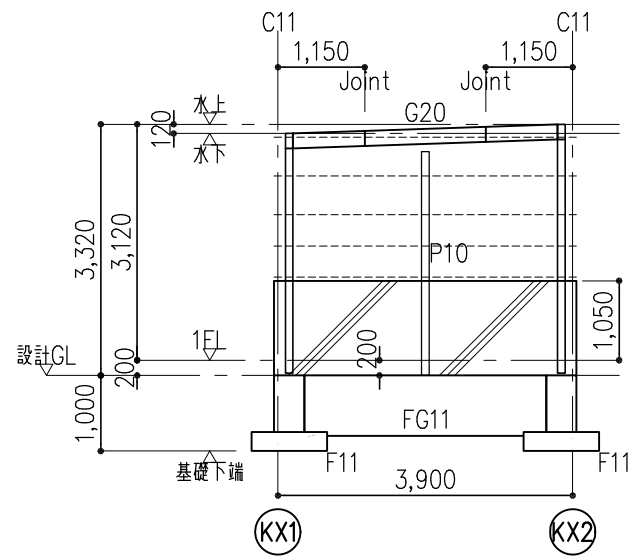






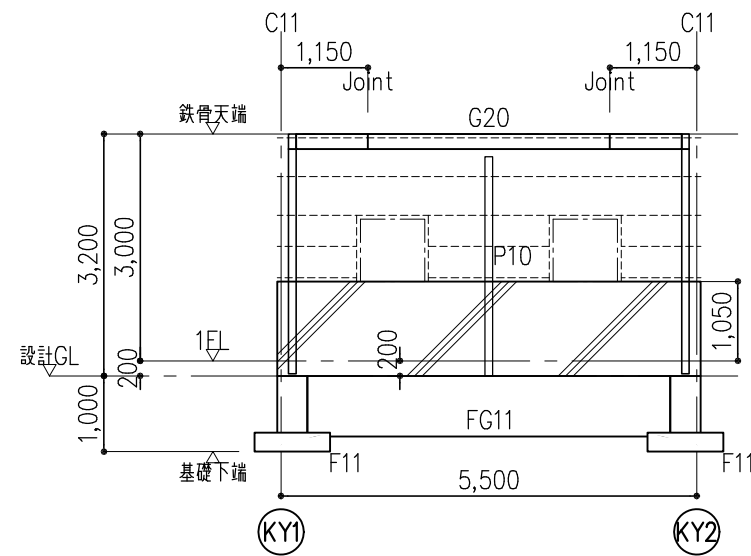
KY1通り軸組図 A3 1:100

- 特記事項
1. は腰壁を示す。
  2. ----- は胴縁を示す。
  3. B.PL下端レベルは1FL-170とする。



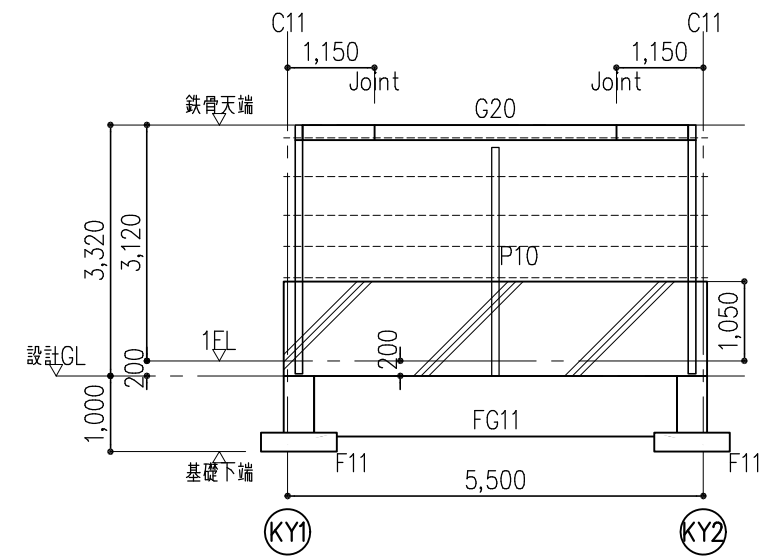
KY2通り軸組図 A3 1:100

- 特記事項
1. は腰壁を示す。
  2. ----- は胴縁を示す。
  3. B.PL下端レベルは1FL-170とする。



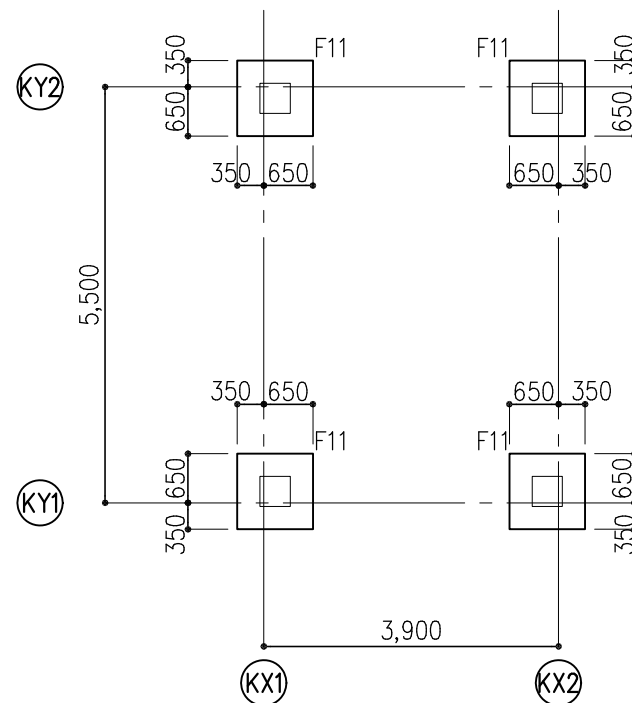
KX1通り軸組図 A3 1:100

- 特記事項
1. は腰壁を示す。
  2. ----- は胴縁を示す。
  3. B.PL下端レベルは1FL-170とする。



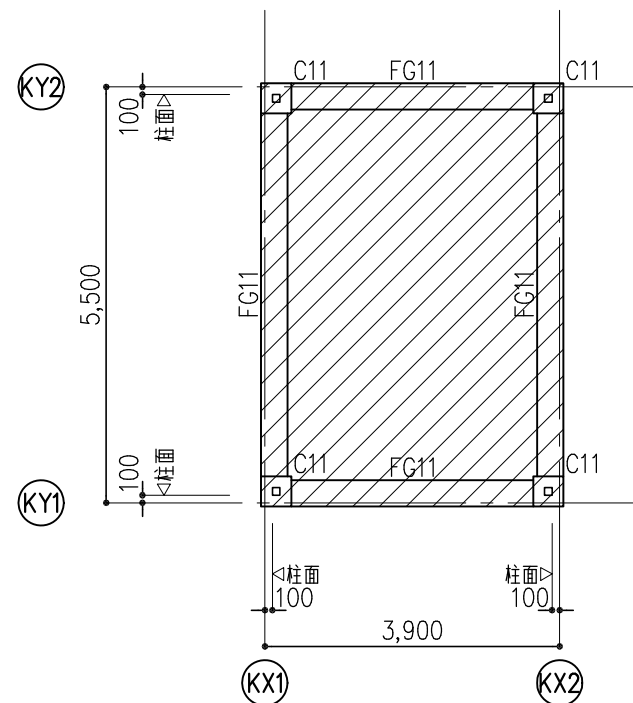
KX2通り軸組図 A3 1:100

- 特記事項
1. は腰壁を示す。
  2. ----- は胴縁を示す。
  3. B.PL下端レベルは1FL-170とする。



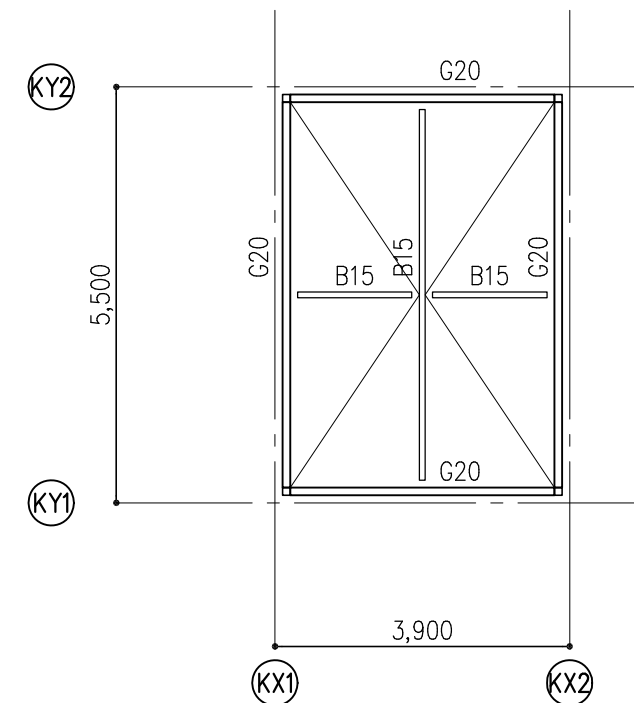
基礎伏図 A3 1:100

- 特記事項
1. 基礎下端レベルはGL-1,000とする。



1階伏図 A3 1:100

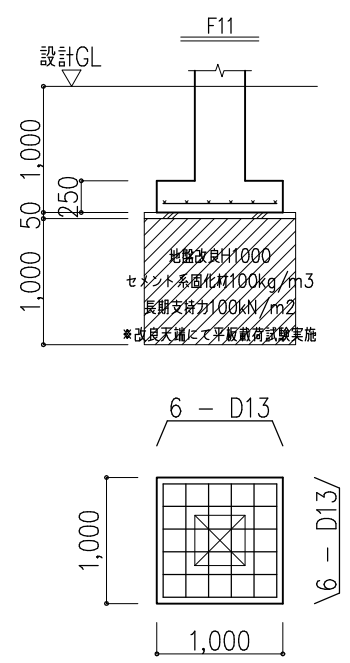
- 特記事項
1. 梁レベルは軸組図に依る。
  2. は土留コンクリートを示す。



R階伏図 A3 1:100

- 特記事項
1. 梁レベルは軸組図に依る。
  2. 水平プレースはSV11とする。

基礎リスト



柱脚リスト

符号	C11
断面	
B x D	400 x 400
主筋	8 - D16 (SD295A)
フープ	□-D13 @ 150 (SD295A)
備考	四隅主筋はフック付き

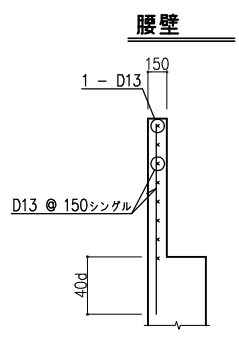
地中梁リスト

特記なき限り  
巾止め筋 D10@1,000  
捨てコン 厚50 砕石 厚50

符号	FG11
位置	全断面
断面	
B x D	350 x 800
上端筋	3-D19
下端筋	3-D19
スターラップ	□-D13 @ 200
腰筋	2 - D13

スラブリスト

符号	版厚	位置	短辺方向 (主筋方向)			長辺方向 (配力筋方向)			備考
			端部	中央	周辺部	端部	中央	周辺部	
土間	200	上端筋 下端筋	D10D13 @ 200 D10 @ 200	← ←	← ←	D10 @ 200 D10 @ 200	← ←	← ←	土間下地盤改良H1000 セメント系固化材100kg/m3



鉄骨リスト

1.ダイヤフラム鉄骨仕様 通しダイヤフラムは取り合う材厚の2サイズUPとし SN490C  
2.鉄骨部材は全て溶融亜鉛メッキ仕上げとし、接続ボルトはF8Tとする。

符号	鉄骨主材	材質	備考
1C11	□ - 100 x 100 x 6	STKR400	
G20	H - 200 x 100 x 5.5 x 8	SS400	
B15	H - 150 x 75 x 5 x 7	SS400	
P10	H - 100 x 100 x 6 x 8	SS400	
SV11	1 - M12	SS400	JIS規格品 ターンバックル付き
鋼線	C - 100 x 50 x 20 x 2.3	SS400	φ600 G.PL-6 中ボルト2-M12

柱脚詳細図 SS400

部材	1C11 □ - 100 x 100 x 6
断面	
アンカーボルト	4 - M16 (ABR400) L=320
ベースプレート	300 x 300 x 25 (SS400)
備考	A.Bolt先端 丸型定着板 48D t=10

大梁継手リスト SS400

部材	B20 H - 200 x 100 x 5.5 x 8
断面	
フランジ	4-M16 PL- 16x100x290
ウェブ	2-M16 2PL- 6x140x170

ブレース仕口リスト SS400

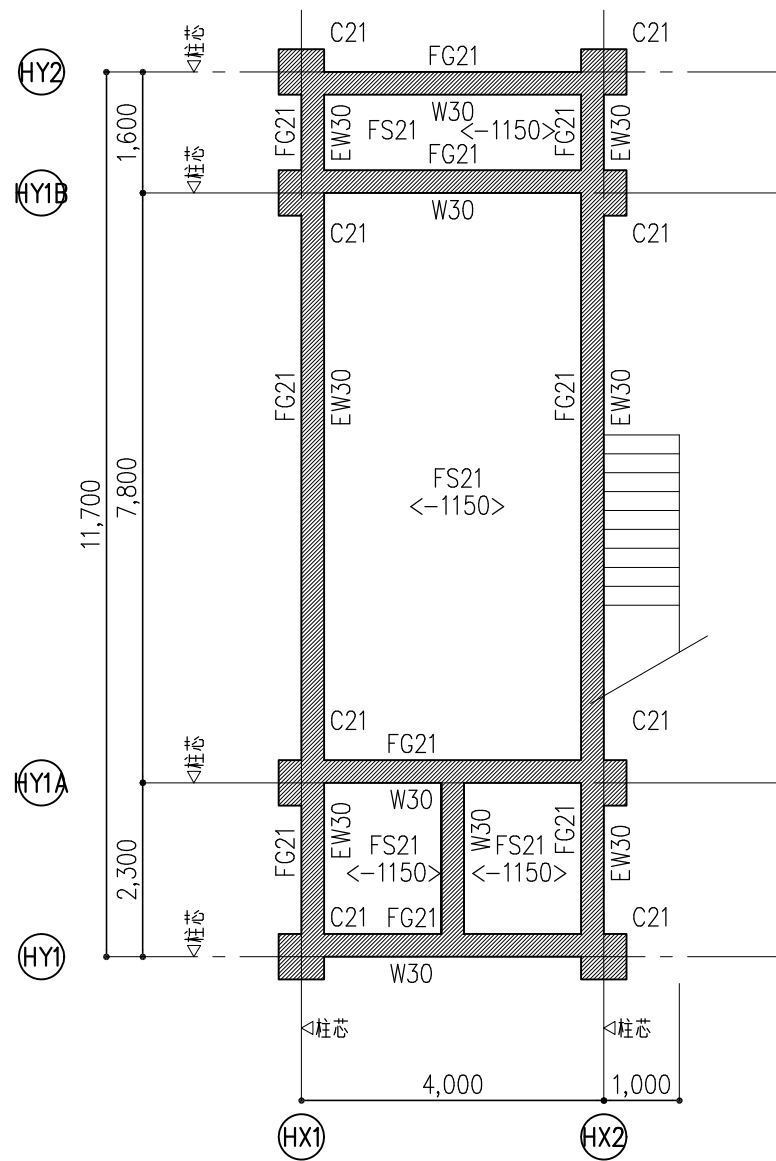
部材	SV11 1 - M12
断面	
HTB	HTB 1 - M16
ガセットプレート	GPL - 6
備考	ターンバックル掛 JIS規格品

ピン接合リスト SS400

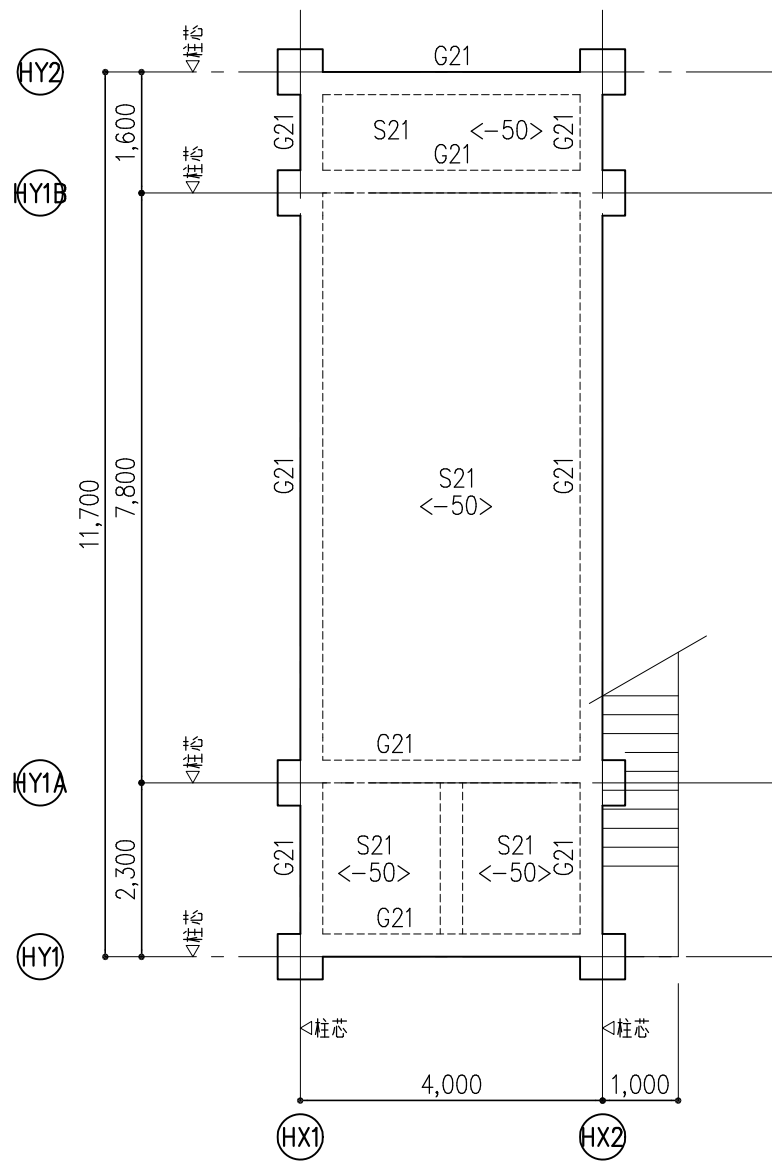
鉄骨	B15 H - 150 x 75 x 5 x 7	P10 H - 100 x 100 x 6 x 8
詳細		
HTB	HTB 2-M16	HTB 2-M16
ガセットプレート	PL- 9	PL- 9

固柱柱脚詳細図 SS400

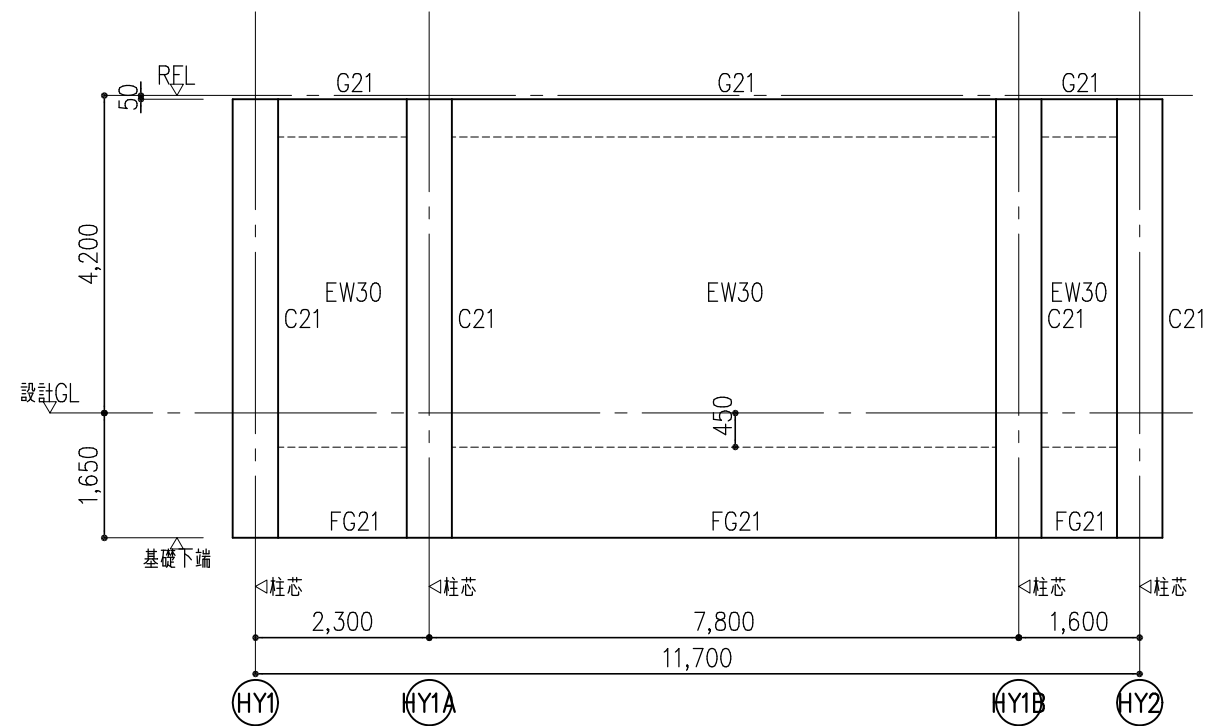
部材	P10 H - 100 x 100 x 6 x 8	定着
断面		
アンカーボルト	A.BOLT 2 - M16	
ベースプレート	B.PL- 12 x 130 x 170	
リブプレート		



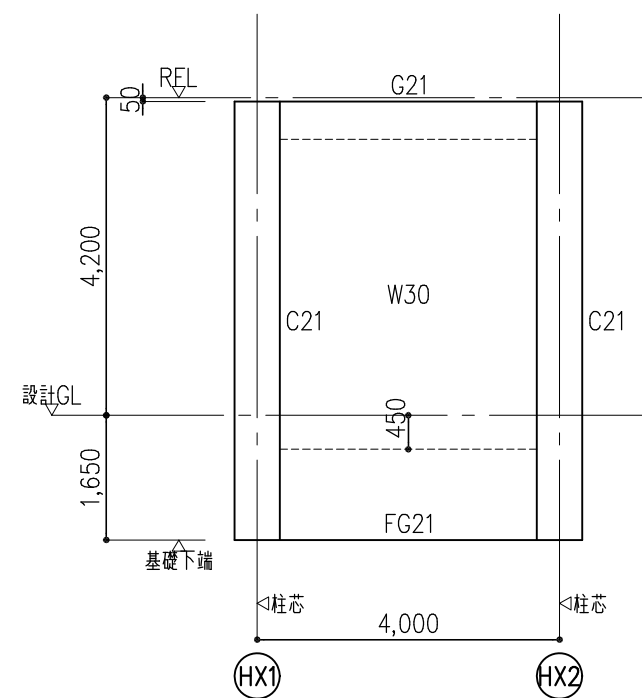
GL伏図 A3 1:100



RF伏図 A3 1:100



HX1~HX2通り軸組図 A3 1:100



HY1~HY4通り軸組図 A3 1:100

柱リスト

符号	C21
断面	
B x D	600 x 600
主筋	12 - D19 (SD345)
フープ	□-D13 @ 100 (SD295A)
備考	四隅主筋はフック付き

梁リスト

特記なき限り  
 巾止め筋 D10@ 1,000  
 捨てコン 厚50 砕石 厚50

符号	FG21	G21
位置	全断面	全断面
断面		
B x D	300 x 1200	300 x 500
上端筋	3/3-D19	3-D19
下端筋	3/3-D19	3-D19
スターラップ	□ -D13 @ 200	□ -D13 @ 200
腰筋	4 - D13	-

壁リスト

巾止め筋 D10 - @ 1.000

符号	EW30	W30	開口補強
断面			
タテ筋	D13@200 ダブル	D13@200 ダブル	A : タテ筋
ヨコ筋	D13@200 ダブル	D13@200 ダブル	B : ヨコ筋
開口部補強筋	タテ筋 2 - D13 ヨコ筋 2 - D13 ナナメ筋	タテ筋 2 - D13 ヨコ筋 2 - D13 ナナメ筋	C : ナナメ筋

スラブリスト

符号	版厚	位置	短辺方向(主筋方向)			長辺方向(配力筋方向)			備考
			端部	中央	周辺部	端部	中央	周辺部	
S21	300	上端筋	D13 @ 200	←	←	D13 @ 200	←	←	捨てコン50 下部地盤改良H1000 改良天端にて平板載荷試験実施 セメント系固化工材200kg/m3 長期支持力130kN/m2
		下端筋	D13 @ 200	←	←	D13 @ 200	←	←	
FS21	500	上端筋	D13 @ 100	←	←	D13 @ 100	←	←	
		下端筋	D13 @ 100	←	←	D13 @ 100	←	←	

片持階段配筋図

